

2019年度 休眠預金活用事業

# 「依存的窃盗症者への再社会化支援事業」 事後評価報告書

【実行団体】 特定非営利活動法人 両全トウネサーレ



人はみな、  
生かされて  
生きてゆく。  
更生保護ネットワーク



【資金分配団体】 更生保護法人 日本更生保護協会

資金分配団体事業名 | 安全・安心な地域社会づくり支援事業  
事業の種類 | 草の根活動支援事業

## 1. 事業概要 ..... p.1

実行団体概要 / 助成事業概要  
助成事業ロジックモデル

## 2. 事後評価実施概要 ..... p.4

- (1) 実施概要
- (2) 実施体制

## 3. 事業の実績 ..... p.7

- 3-1 インプット
- 3-2 活動詳細と支援事例
- 3-3 活動とアウトプットの実績
- 3-4 外部との連携の実績

## 4. アウトカムの分析 ..... p.22

- 4-1 アウトカムの達成度
  - (1) アウトカムの計画と実績
  - (2) アウトカムの達成度についての評価
- 4-2 事業の効率性
- 4-3 成功要因・課題

## 5. 考察 ..... p.30

事業全体を振り返っての考察  
(その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓)

## 6. 結論 ..... p.33

- 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 6-2 事業実施の妥当性

## 7. 資料 ..... p.34

# 1. 事業概要

実行団体

## 特定非営利活動法人 両全トウネサーレ

団体概要

女性専用の更生保護施設を母体とした、障害者総合支援法及び生活困窮者自立支援法に基づくグループホームを運営。依存症等による社会生活に支障をきたしている人々への再社会化プログラムの開発及び地域社会への啓蒙活動を行っており、母体の更生保護施設退所者等に対しても専門的支援につながるよう、連携して環境整備を行っている。



解決を目指す  
社会課題

刑務所出所者のうち、窃盗の常習者あるいはクレプトマニアとの診断等により起訴猶予等となった依存的窃盗症の人々は、地域での孤立や就労の困難性から、再犯リスクが極めて高い状態にある。更に、窃盗者に占める高齢者の割合が増加傾向にあり、地域社会で解決すべき喫緊の課題であると言える。しかし、これらの被支援者に対する治療的ケアや生活支援は十分に行われているとは言えない実情にある。また、社会一般に対する窃盗症（周辺域を含めて）への正しい理解のための広報活動は極めて低調である。

## 助成事業

事業名

## 依存的窃盗症者への再社会化支援事業

事業概要

更生保護施設やグループホーム入居の被保護者の内、常習的・依存的窃盗症者を対象として開発する窃盗依存症回復支援プログラムを実施し、施設退所後の継続支援を試行する。効果を検証してプログラムを完成させ、外部の依存症回復施設や精神科医療機関など、他機関での本プログラム活用を支援していく。

実施期間 | 3年 (2020.3~2023.3)

対象地域 | 東京都・神奈川、埼玉及び千葉

支援対象 | 常習窃盗行為者等

(窃盗症及びその疑いのある者)

事業終了時の  
展望  
(当初案)

プログラムの効果検証を適宜行いエビデンスを蓄積した上で、息の長い活用先として自助グループ創設を支援する。支援の連携先拡充に向け、更生保護を始め司法領域、地域行政（高齢者の場合は地域包括支援センター、依存症的精神障害者については、精神保健福祉センター、若年者の場合若者サポートセンター等）への接続を可能にするため、東京都の関連部局等へ働き掛けを行う。

中期  
アウトカム

東京・神奈川・埼玉・千葉及び大都市圏において、  
依存的窃盗症者等が、自らの窃盗依存症の問題と向き合い続けられる状態になる。

短期  
アウトカム

01

リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）に参加する被支援者が増える。

02

リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）の効果についてのエビデンスが証明される

03

被支援者（リ・コネクト参加者及びその他の支援を必要とされている方）の日常生活が整い、精神的な安定や良い対人関係が得られる。

04

被支援者（リ・コネクト参加者 & その他の支援を必要とされている方）がサポートグループ（建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設）と繋がった状態になる。

アウトプット

0101

1人でも多くの依存的窃盗症者が、リ・コネクトを受けられる状態になる。

0201

依存的窃盗症者がリ・コネクトを受講して、依存症についての知識を得られている。

0301

リ・コネクトの受講が終了した人が、プログラムのメンテナンスのために、電話相談支援を受けられる

0401

依存的窃盗症者（リ・コネクト受講終了者含む）が、自助グループ活動に参加している。

活動

■病院や自助グループでプログラムのデモンストレーション等を行い、利用希望者の紹介依頼を行う。 ■希望者にプログラムを定期実施する ■利用団体にはレクチャー等の協力支援を行う。

依存的窃盗症者再社会化プログラムの作成（ワークブックの作成）を行う。

プログラム受講修了者に電話等相談支援体制の整備と広報活動を行い、LINEやZOOM等も活用しながら、カウンセリングの継続的な支援を行う。

■グループワークの場所提供と体制整備 ■福祉機関に自助グループを説明し、該当者の紹介依頼を実施する。 ■自助グループへ繋げ生活基盤が整った被支援者に対して自立支援を行う

## 2. 事後評価 実施概要

### (1) 実施概要

#### ① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

リ・コネクトプログラムの受講により安定した生活が送れるようになる。また、自立後の相談支援に繋がっている人が一定数確保できている。

#### ② どんな調査で測定したのか

短期 アウトカム 01 の評価	<b>01</b>	リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）に参加する被支援者が増える。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> 支援記録 集計 2020年4月～2022年12月 調査時期までにリ・コネクトプログラムを1クール（以上）受講終了している人 47人 実績調査集計
短期 アウトカム 02 の評価	<b>02</b>	リ・コネクト（窃盗依存症者回復支援プログラム）の効果についてのエビデンスが証明される。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> 支援記録 集計 2022年4月～2023年1月 47人 実績集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> アンケート調査（主な項目は別紙のとおり） 2022年4月～2023年1月 上記01の対象となった47人のうち、アンケート回答については同意が得られた35人で実施した。アンケート実施した35名中、アンケート結果の公表についての同意が得られなかった5名を除き、回答者数30人（有効回答率85.7%=アンケートに回答した35人のうち、有効な回答が得られた30人が占める割合）で集計を行った。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定性調査 】</b> 訪問面接調査（半構造化面接） 2022年5月～2022年11月 事業の対象となった47人のうち、最も特徴的な変化を示した5人を対象にした。その選定方法として回答同意者から選定。調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

## ② どんな調査で測定したのか

短期 アウトカム 03の評価	<b>03</b>	<b>被支援者（リ・コネクト参加者及びその他の支援を必要とされている方）の日常生活が整い、精神的な安定や良い対人関係が得られる。</b>
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> アンケート調査（主な項目は別紙のとおり） 2022年8月～2023年1月 事業の対象となった47人のうち、追跡調査可能で同意のある者35人を選定。最終的にアンケートを回収できた人数は30人（有効回答率85.7%、未回収5人は訪問時等に回収できなかったもの）であった。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定性調査 】</b> 訪問面接調査（半構造化面接） 2022年5月～2022年11月 事業の対象となった47人のうち、最も特徴的な変化を示した5人を対象にした。その選定方法として同意者から選定。調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。
短期 アウトカム 04の評価	<b>04</b>	<b>被支援者（リ・コネクト参加者&amp;その他の支援を必要とされている方）がサポートグループ（建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設）と繋がった状態になる。</b>
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> 支援記録 集計 2022年8月～2022年12月 各支援団体への参加者総数のうち6か月以上継続参加している被支援者28人 実績数値
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> アンケート調査（主な項目は02,03と同じ） 2022年8月～2022年12月 事業の対象となった47人のうち、6か月以上継続している者で調査同意者は12人であった。（回収率33.3%） 回答数値
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定性調査 】</b> 訪問面接調査（半構造化面接） 2022年8月～2022年12月 事業の対象となった47人のうち、最も特徴的な変化を示した5人を対象にした。その選定方法として同意者から選定。調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

### ③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

比較対象群がないことから、精密な効果等の判断を下すことができないが、犯罪白書の窃盗者再犯率等と比較した。但し、今回事業の被支援者は、支援事業を中途離脱するものや、予后面談及びアンケート調査を忌避する者が多く、精密な効果検証はできていない。

また、本事業のような行動依存は物質依存とことなり、各種の機関が発出しているデータもほとんどないのが実情である。

## (2) 実施体制

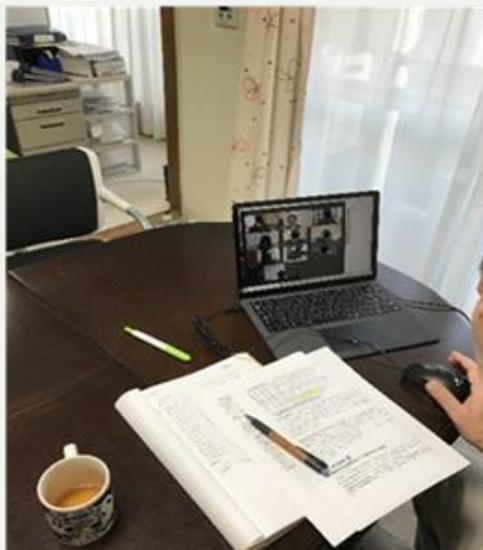
内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	課題の分析	小畑輝海	理事長
内部	課題の分析	工藤威美子	理事
内部	事業設計の分析	佐藤克巳	理事
内部	事業設計の分析	氏家泰司	監事
内部	事業設計の分析	鷲野 薫	理事
外部	事業設計の分析	千田早苗	(特) チダラボ代表
外部	事業設計の分析	小津理人	小津社労士事務所所長

## 3. 事業の実績

### 3-1 インプット（主要なものを記載）

項目	内容・金額	
(1) 人材 (主に活動していたメンバーの人数や役割等)	内部：合計2人（担当者1人）／ 外部：合計7人（専門家3人）	
(2) 資機材（主要なもの）	モバイルパソコン、プロジェクター、遠隔関連資材、電話管理パソコン、収納庫	
(3) 経費実績 助成金の合計		
① 契約当初の計画金額	合計 10,525,996 円	事業費：10,047,046円（内訳 直接事業費：9,288,866円／ 管理的経費：758,180円） 評価関連経費：478,950円 コロナ対応緊急支援追加額： 0 円（内訳 直接事業費： 0 円／ 管理的経費： 0 円）
② 実際に投入した金額と種類	合計 10,725,996 円	事業費：10,047,046円（内訳 直接事業費：9,288,866円／ 管理的経費：758,180円） 評価関連経費：478,950円 コロナ対応緊急支援追加額：200,000円（内訳 直接事業費：200,000円／ 管理的経費：0円）
(4) 自己資金		
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計 2,636,026 円	
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計 2,636,026 円	
③ 資金調達で工夫した点	民間財団からの資金援助を活用	

### リ・コネクト | 窃盗依存症回復支援プログラムの作成



リ・コネクトプログラムは、更生保護法人両全会において平成27年から常習窃盗者や摂食障害と万引きが併存している対象者に対し、その同意を得た者へ指導を開始したことが始まりである。両全会はその後別法人である特定非営利活動法人両全トウネサーレを設置、退会後の自立に向けたグループホーム事業と連携し、触法者の社会定着を目指した。そこで男性向けにも対応できるものへ改修し、対象者の範囲拡大を目指した。リ・コネクトは、再犯危険性・ニーズ応答性モデルをベースに認知・行動・対人トピックプログラムやグッドライフモデル等(※)を日本人向け改修したものである。

対象者は、クレプトマニアに限定することなく、その周辺域の人々をメインに考えている。個別にもグループワークにも対応できるプログラムである。

### プログラム受講者の声

両全会での試行段階では、受講者はおおむね3か月、月2回ペースであったが、退会時感想などでは、「自分の認知の仕方や感情のコントロールの在り方に気づきがあった」、「否定的な考えへの対応策を見つけた」などの感想が見られた。また、退会后グループホームで継続支援を受けたHは、スーパーで万引きしそうになった時、リ・コネクトプログラムのセッション9「問題の解決法を身につける」を思い出し、今の問題を解決出来るのは交番だけだと考えて、自ら交番へ駆け込み「万引きしそう」と訴え、警察官のグループホームまで付き添われ帰宅するなど良い対処法を実践できた例がある。

男性では、グループホーム利用者にリ・コネクトを実施した数人の中で、近隣のコンビニエンスストアで酒類を数回万引きするなど改善の見られない事案も散見され、本人への面談等を行ったところ、「リ・コネクトにより、万引きに対する抵抗感が生まれ、ごちない万引きとなり、見つかってしまった。以前なら完璧な盗みができたと思う」などの感想が出された。こういった依存的な窃盗者にも一定の意識変化が見られたものと受け止めている。

※再犯危険性ニーズ応答性モデル；対象者の再犯リスク水準に対応した介入密度の処遇を実施すると最も再犯防止効果上がる、処遇は犯罪誘発要因に限定して行われなければならない等(薬物依存や再犯リスクに対応)。

※認知・行動・対人トピックプログラム；自己への思いやりを育むための心理教育的介入技法(DV・家庭内暴力に有効とされる)。

※グッドライフモデル；人間は生まれながらに何らかの「よさ」(primary human goods)を追求し、犯罪行為はそれを不適切な手段で得ようとした結果である考える。(日常生活の円滑な対応ができることを目指した心理療法)

いずれも、米国で実践されている各種依存症の回復に有益なプログラムである

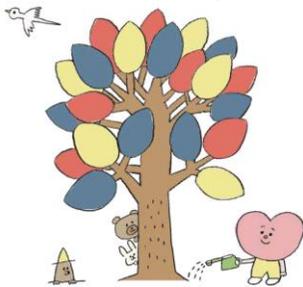
## リ・コネクト | 窃盗依存症回復支援プログラムの有効性

受講者の多くは、職業スキルの乏しさや注意が散漫な傾向にあり、定期かつ安定した就労が困難な者が多い（パートタイム等を含め調査47人中就労者25人53.2%）。また、更生保護施設やグループホーム退所後の住まいについて、頻回転居する者や就労のため遠方へ転居する者が多く、継続的な支援が難しい事例も少なくない。リ・コネクトプログラム経験により、生活のリズムが整ったと感じる人が76%、プログラムが役立ったと考える者が、74.5%に上った。しかしながら時間小経過とともに、プログラムの必要性を感じる人が減少（終了時70%肯定⇒6か月後60%肯定、6か月後37%肯定）していることから、フォローアップの必要性が認められる。また、3か月後リ・コネクトプログラム実施者47人中サポートグループへ何らかの形で繋がった人は、27人（57.4%実施団体との合同調査）存在するが、誘われて仕方なく、意味はないとする者が18人（66.7%）と自助的活動には消極である。また、摂食障害やアルコール依存症等とも併存障害者も多く、並行した離脱プログラムを受講する必要がある者も多く、就労との両立に困難を来す実情もある。

さらに、自分は触法関連者との意識から自分にスティグマを貼ることから、K・A等の自助グループや精神保健福祉センターのデイケアへの参加を希望しない者が多い実情もあり（調査同意者35人中1回でも自助グループに参加した者25人、但しサポートグループに繋がって良かったとする者は4人）今後はそういった場所への動向支援が必要と考えている。

藤野京子・鷲野 薫

ワークブック  
窃盗離脱プログラム  
リ・コネクト



**窃盗防止対策のレシピ本!!**

窃盗をした女性に、長年、カンセリングしてきた著者が、窃盗をやめたいと思っている人、やめようか迷っている人、なぜ窃盗に走ったのか、窃盗をしないために、社会や人とのつながりをもう一度つくるためにどうしたらよいか。

さまざまな不安や問題を解決する方法をアドバイス。

## 窃盗防止対策のレシピ本!!

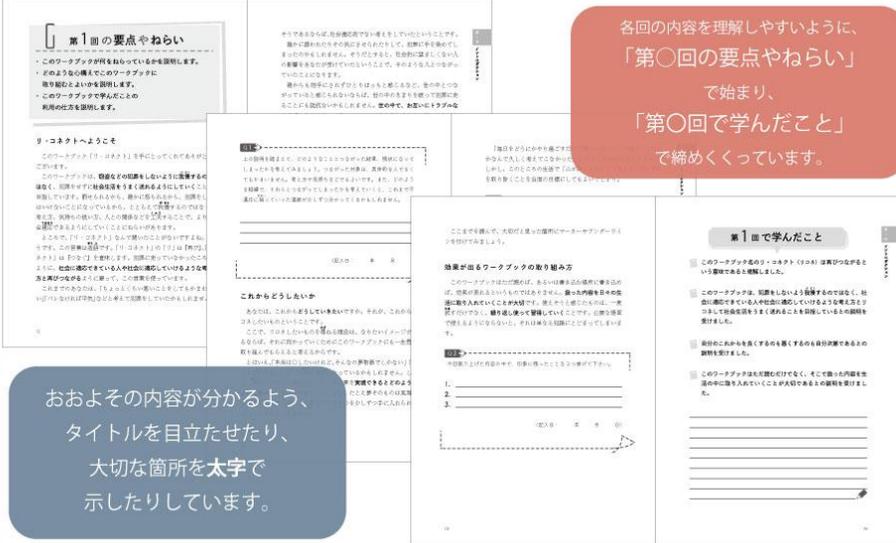


### リ・コネクト(リコネ)とは？

「リ」は『再び』、「コネクト」は『つなぐ』の意味です。窃盗に走っても仕方がないという考えや窃盗を後押ししてしまうような人とつながっていたため、窃盗に走っていたのでしょう。ですから、そのようなつながりを見直して、再び犯罪に走らずに済むよう、社会でうまく生活している人や社会人として認められている考え方ももう一度つながってほしいとの思いを込めて、リコネの言葉を使っています。

各回の内容を理解しやすいように、「第0回の要点やねらい」で始まり、「第0回で学んだこと」で締めくくっています。

おおよその内容が分かるよう、タイトルを目立たせたり、大切な箇所を太字で示したりしています。



## リ・コネクトの支援事例から

アンケートを実施した30名のうち、非常に特徴的な5名について、さらに半構造化面接を実施した。

### 摂食障害の課題も抱えたAさんの場合

#### 誰にも助けを求めることができない孤独

Aさん：女性（46歳）

令和3年12月から法人のグループホームカーサ・トウネサーレへ入居し、リ・コネクトプログラムを受講していたところ、令和4年5月に摂食障害の病状が悪化し、精神科病院へ入院した。その後、同年9月に退院と同時に、父親のもとへ同居することとなった、家では窃盗やリ・コネクトプログラムについては隠していたことから、リ・コネクトの継続は困難であった。また、本人は就労の意向もあり周囲には盗癖のことは一切クローズしていた、誰にも助けを求めることができず、精神的にも追い詰められた状態であった。そんな中、同年10月にファミリーレストランの洗い場のパートの仕事を得た。数日後、スタッフルームで金品が喪失する事案が発生した。本人は、自分が疑がわれるのが嫌で店をやめてしまった。結局、再犯をすることとなり、事件化したのが弁護士が治療に専念すること治療先の病院を手当てすることで、起訴猶予処分となった、病院から本人が連絡し来ており、退院後は、リ・コネクトプログラムを再度受講したいと述べている

（入院期間は半年程度長期になる見込みで、その後は、入院している病院のグループホームへ入居予定であり、リ・コネクトプログラムは通所かZOOMとなる予定）。

### アルコール依存との重複障害のBさんの場合

#### 飲みたい誘惑を断つことの難しさ

Bさん：男性（47歳）

統合失調症の患者で当法人グループホーム・ジラソーレ利用者である。グループホームで令和3年6月からリ・コネクトプログラムを実施している。自助活動としては近隣精神科病院のグループワークに参加している。現在、仕事はできず(以前は建設作業員)生活保護で生計を維持している。知らず知らずのうちに、コンビニでお酒を窃取し、コンビニ前で飲酒し、店長から警察に通報される。グループホーム管理者が警察にで出向き、本人は病気治療のため市内精神科病院Tに通勤中でありうこと。また、窃盗防止のプログラムを受講中であることなどを説明し、併せて店舗には金額を支払ったことを説明し、微罪処分とされた。

コンビニの店長にも上記の説明をしたところ、リ・コネクトプログラムに興味を持ったようで、「当人を店舗へ出禁にはしない。店舗としても良く注意し、同人が来店した折は十分動静を見守り、不審な動静があればホームへ連絡する。」とされた。その後、酒類の万引きがあったが、店舗からホームに連絡があり、職員が対応することで、警察沙汰にはなっていない(地域での見守り)。

## リ・コネクトの支援事例から

アンケートを実施した30名のうち、非常に特徴的な5名について、さらに半構造化面接を実施した。

### 一旦プログラムを中断したCさんの場合

#### 離脱後の再受講

Cさん：女性（58歳）

令和3年3月からヒューマン・アルバのグループホームび入居中の人で、リ・コネクトプログラムを受講し、その後、8月に転居し、プログラム中断状態であった。

本人から、電話で「万引きが最近頻発しており、いつかは警備員等に捕まると思う。」と連絡してきた。転居し遠方となったことからZOOMでのセッション再開を打診したところ、やってみたいとのレスポンスがあり、11月から再開した。

一人暮らしを開始し、不安や焦燥感が日増しに襲いかかり、どうしてよいのか自分で分からなくなったことで連絡をしてきたものである。アルバの指導担当者から連絡してきたことを褒めると同時に、リ・コネプログラムの有効性を再度説明した。

その後の様子を毎回確認するが、概ね万引きはないとの回答を得ている。特に「§8の衝動性や取りつかれに対処する」を反復実施したことが効果的であったと感想を述べた。

### 高齢のDさんの場合

#### 一般入居施設でのトラブルから

Dさん：男性（67歳）

令和2年11月から電話相談があり、それまで入居していた高齢者ケアハウス内で他の入居者の持ち物を窃取し、退去せざるを得なくなり相談があった。当法人グループホーム（ジラソーレ）を紹介し、グループホームへ転居と同時にリ・コネクトを受講した。また、ヒューマン・アルバでの依存症者自助的活動にも参加し、平穩に暮らしていた。ところが、翌年令和3年5月ごろ、グループホーム内で物品の紛失騒動が発生した。本人は。「自分はリ・コネクトというプログラムを受けており、今は盗みをしていない。誰が物を盗ったかという犯人捜しはやめて、みんなでリ・コネクトプログラムを受けてみませんか」とグループホーム内でのミーティングで話した。その後、利用者2人がプログラムに参加した（当時の全利用者は8人のうちDさんとほか2人の合計3人が参加）。セッションが進むうち、後から参加したEさんが、5月のグループホーム内での物品の紛失騒動は自分が盗んだためであることを告白した。セッション6の「考えの歪み」に取り組み、実践した後のことであった。

## リ・コネクト活用先の開拓 |

### より多くの人に回復につながってほしい

本支援事業を実施するにあたり、更生保護施設である両全会での試行実施を踏まえ、他の更生保護施設への波及を検討し、各施設でのアンケートを行うべく準備したが、一部施設から「マンパワーもなく、日常業務が建て込んでいて、プラスアルファを実施することは無理」との意見がだされたことから、更生保護施設への依頼は実施可能な施設へ個別でお願いすることとした。

そこで、リ・コネクトを啓蒙・広報するターゲットを民間の依存症回復事業を行っている施設へ転換した。その結果、株式会社ヒューマン・アルバや株式会社建築家さんとの連携が可能となった。その後も、各地の障害者相談事業所、NPO法人で自立支援事業を行っている施設等へ広報・説明等を繰り返し実施した（84か所延128回）が、コロナウィルスの影響等もあり、また、窃盗依存に関する知識やその社会化プログラムに関する知見がないことから積極的にリ・コネクトを活用しようとする団体・施設の獲得は困難な状況にあった。その後も繰り返し説明等を行ったところ、ジャパマック・八王子ダルク等のダルク施設等と連携できる状況となった。

これらの経験を踏まえ、当法人グループホーム近隣医療機関のデイケアセンターへ積極的に説明を繰り返した結果、駒木野病院においてデイケアでの試行的プログラム実施が可能となった。また、高月病院等医療機関への広報を活発化しており、今後の展開に期待している。

さらに、都立中部総合精神保健福祉センター及び都立総合精神保健福祉センターへの広報、説明を実施し、当初はコロナウィルスの影響等で進展しなかったが、重ねて折衝。説明を繰り返したところ、精保センターでは窃盗単独での相談件数は、ごく僅少であるものの年に数件程度の相談があること、また、摂食障害やアルコール依存症との重複障害もいることから、支援相談が寄せられた場合、連携して対応していくこととした。

行政機関については、東日本矯正医療センターを始め広報活動を活発に実施した。また、刑法改正にかかる拘禁刑創設により、刑事施設での特別改善指導の強化の一環としてリ・コネクトを活用することを要請し、今年職員研修を実施することとなった。

さらに、法務省保護局主催の会議において、リ・コネクトプログラムの説明の機会を得たことから、新興会などの更生保護施設数か所からリ・コネを利用したいとの申し出があり、プログラムを提供した。

## フォローアップ | いつでも電話で相談に

一般の相談者のため電話相談システムを構築すべく準備したが、ホームページからのアクセス、またそれにより以後の相談はZOOMやLINEの利用が本人にとって利用しやすいとの反応が多く、コスト面でも圧倒的に優位にあることから電話相談システムは取りやめた。ホームページにアクセスがあった場合、直ちに反応できるよう3人の相談者を用意し、適時適切に対応できるようにした。但し、対応できる時間を説明し、相談者と支援者の時間的マッチングをスケジュールし対応する形として。相談者1人当たり20～30分の対応で、場合により区役所等の福祉部門等を紹介し、福祉のセーフティネットへ繋ぐなどした。

全く初めての相談者については、依頼者の状態を確認し、緊急事案と思われる場合は、事業所への来所を要請し、それ以外の場合は、じっくり話を聞くこととしており、おおむね30分程度の時間を当てている。また、リ・コネクト受講者からのコンタクトについては、状態確認や自助的活動への参加の有無を聞き取り、場合によってはヒューマン・アルバなどへの同行を行っている。

相談体制の都合上、おおむね月に2回程度とお願いしているが、事案によってはインターネットチャットによる深夜対応も実施している。

情報機器等による相談は、1回で終わる「覗いてみただけ」の人が2割、2～3回でその後アクセスしない人が3割程度存在し、1年程度続く人は4割程度であり、金銭問題（貧困、生活保護に関する）、就労問題や窃盗を犯した等の相談事案が多い。また、一年経過後にアクセスしてきた者も数名あり、誰かに繋がりたいと思う人も存在していると実感した。



## 地域でのフォローアップ |

### 地域でリ・コネクトを繰り返し実施して再犯を防ぐ

当法人グループホームは中野区に1ユニット、八王子2ユニットあり、それぞれ触法者と一般者をインクリュージョンしている。従って、グループホームでは個別的な指導にならざるを得ないが、特に問題なく地域での居場所作りができています。

また、ヒューマン・アルバのグループホームは相模原市にあり、自社のデイケア事業所へ通所する形をとっている（デイケア施設がサポートグループの集合場所）。更には、杉並区内の健康家さんの事業所においてリ・コネクトプログラム、サポートグループ活動を行っている。

また、自立しアパート等に居住する被支援者はそれぞれの事業所へ通所することでリ・コネクトを受講している。

リ・コネクトを受講し、地域社会での生活に円滑に参加するため、地域の清掃活動等の奉仕作業をを自主的に行い対人関係の築き方等を体験的に習得するなどし、独立立ちを目指している。

ジラソーレ近隣のコンビニでは、時々ジラソーレ利用者の万引きも発生しているが、対象者はリ・コネクトプログラムを受講中で、治療の過程であることを説明するなどしたことや、近隣の清掃作業等を実施していることから理解を得ており、万引き見つけた場合施設へ連絡し対処することで合意を得ている。

さらに、健康家さんでもリ・コネクトプログラムの実施及びサポートグループ活動を行っており、特に建設系の就労を目指した支援活動を行っている。回復者等は自己の会社や関連企業を紹介するなどの活動を行っている。

右は、令和4年12月にジャパンマックが開催した「依存症対応公開講座」でリ・コネクトプログラムについて説明と質疑応答を行ったもの



ZOOM参加による  
ジャパンマック連続講座  
「依存症からの回復について考える」  
第22回  
窃盗癖者の回復支援について

日時：令和4年12月23日（金）午後7時～午後8時30分

講師：早稲田大学文学学術院教授  
藤野京子先生  
特定非営利活動法人両全トウネサーレ理事  
鷲野薫先生

今回は、早稲田大学文学学術院教授の藤野京子先生と、特定非営利活動法人両全トウネサーレ理事の鷲野薫先生に、『窃盗癖者の回復支援について』と題してお話しいただきます。

講師の藤野京子先生は、早稲田大学文学学術院教授、東京、八王子等の少年鑑別所鑑別技官、法務総合研究所室長研究官などを歴任されております。

鷲野薫先生は、特定非営利活動法人両全トウネサーレ理事、国士館大学法学部非常勤講師、早稲田大学社会安全政策研究所招聘研究員、法務省仙台矯正管区調査官、法務省大臣官房補佐官、久里浜少年院長等9施設の院長などを歴任され、現在は当法人ジャパンマックの理事もおつとめいただいております。

お二人とも多方面で幅広くご活躍で、共同著作に【薬物離脱ワークブック】【ワークブック 窃盗離脱プログラム・リ・コネクト】がございます。

参加お申し込みは、下記アドレスに空メールを送信しお手続きください。  
S22@japanmack.or.jp  
ZOOMによるご参加のみとなります。  
参加費は無料です。

特定非営利活動法人ジャパンマック  
〒141-0023 東京都北区滝野川16-76-9  
エスポワール・オアシス  
TEL: 03-3916-7878

POSC  
警察官協会  
日本少年犯罪学会  
日本少年鑑別所協会  
日本少年院協会



グループホームで安定した生活



グループセッションに一風景



← 保護局主催研修会での説明  
↓ 2021年ミニシンポ



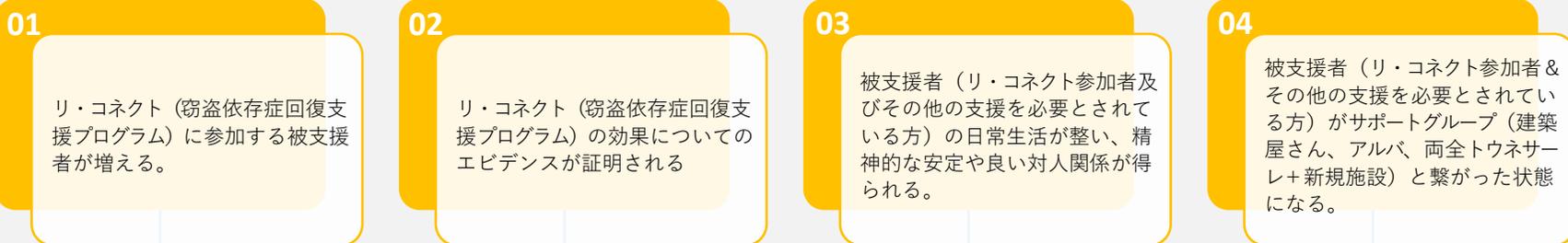
ロジックモデル

【依存的窃盗症者への再社会化支援事業】

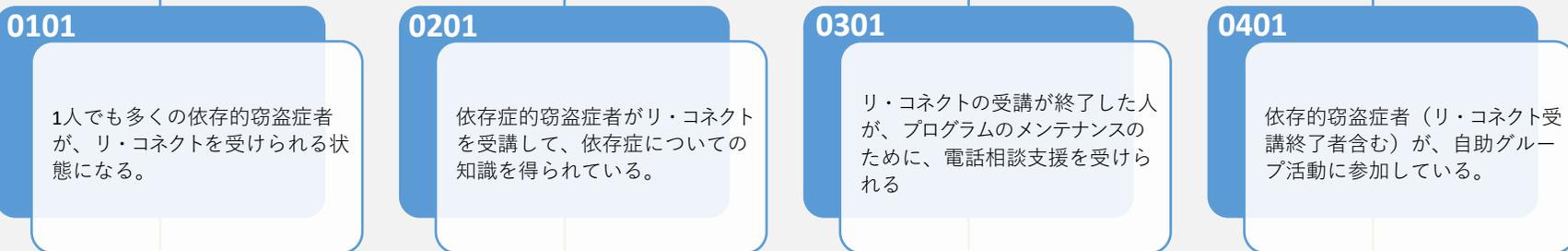
中期  
アウトカム

東京・神奈川・埼玉・千葉及び大都市圏において、  
依存的窃盗症者等が、自らの窃盗依存症の問題と向き合い続けられる状態になる。

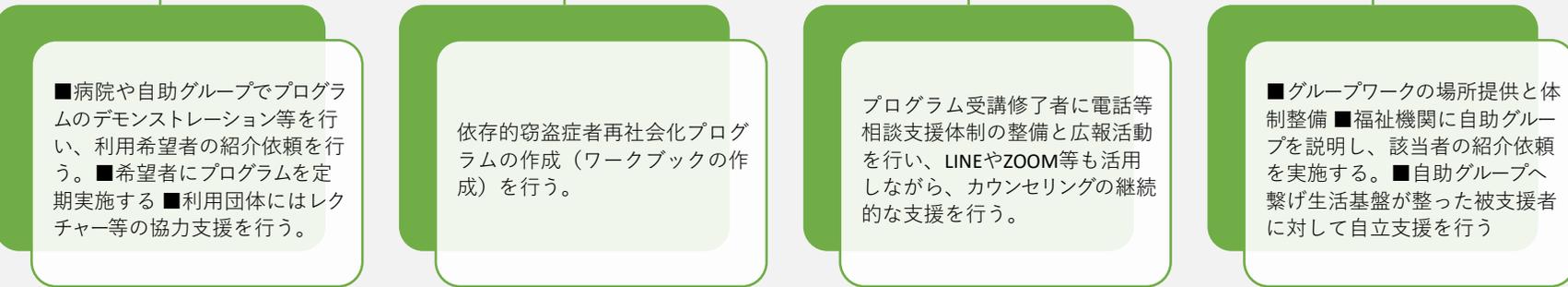
短期  
アウトカム



アウトプット



活動



### 3-3 活動とアウトプットの実績

アウトプット 0101	アウトプット   1人でも多くの依存的窃盗症者が、リ・コネクト（窃盗依存症者回復支援プログラム）を受けられる状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■病院や自助グループでプログラムのデモンストレーション等を行い、利用希望者の紹介依頼を行う。 ■希望者にプログラムを定期実施する ■利用団体にはレクチャー等の協力支援を行う。		
指標	初期値	目標値	実績値
①再社会化プログラムの活用について説明に赴いた団体数	① 1 施設	①協働団体30施設以上	①84施設・団体 <b>【目標値達成】</b> ※2020年5月から2022年12月まで
②説明実施延べ回数	②10回 (2020年 4月から6月)	②60回以上	②延べ128回 <b>【目標値達成】</b> ※2020年5月から2022年12月まで
③リ・コネクト広報用チラシの配布枚数	③なし	③150か所 750部以上	③延配布数2000枚 <b>【目標値達成】</b> 広報用パンフ配布先280か所（更生保護施設10か所、社会福祉法人130か所、精保センター10か所、NPO法人55か所、地域相談事業所30か所、病院クリニック35か所、大学10か所）

アウトプット 0201	アウトプット   依存症的窃盗症者がリ・コネクト（窃盗依存症者回復支援プログラム）を受講して、依存症についての知識を得られている。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   依存症的窃盗症者再社会化プログラムの作成（ワークブックの作成）を行う		
指標	初期値	目標値	実績値
リ・コネクトのワークブックが完成する （印刷される）	ワークブックなし	ワークブック （冊子）が完成する	2022年9月完成 <b>【目標達成】</b> 関係団体等185団体へ配布（社会福祉法人65か所、精保センター10か所、NPO法人55か所、病院クリニック35か所、大学10か所、更生保護施設10か所）のべ200冊配布

アウトプット 0301	アウトプット   リ・コネクトの受講が終了した人が、プログラムのメンテナンスのために、電話相談支援を受けられる。 目標達成時期   2023年1月			
	主な活動（概要）   プログラム受講修了者に電話等相談支援体制の整備と広報活動を行い、LINEやZOOM等も活用しながら、カウンセリングの継続的な支援を行う。			
指標	初期値	目標値	実績値	
①リ・コネクト受講生のうち、終了後（自立後）の電話相談について、情報提供された人の割合	①0人	①受講者の100%	①74.5% (47人中35人)	【目標値未達成】
②電話相談支援を受けた人の人数	②0人	②実人員50人 (又は延べ人数 150人)	②実人員35人・延べ128人(回)	【目標値未達成】
③②のうち、リ・コネクト終了者数	③0人	③実人員20人	③28人(一部受講者8人を含む)	【目標値達成】

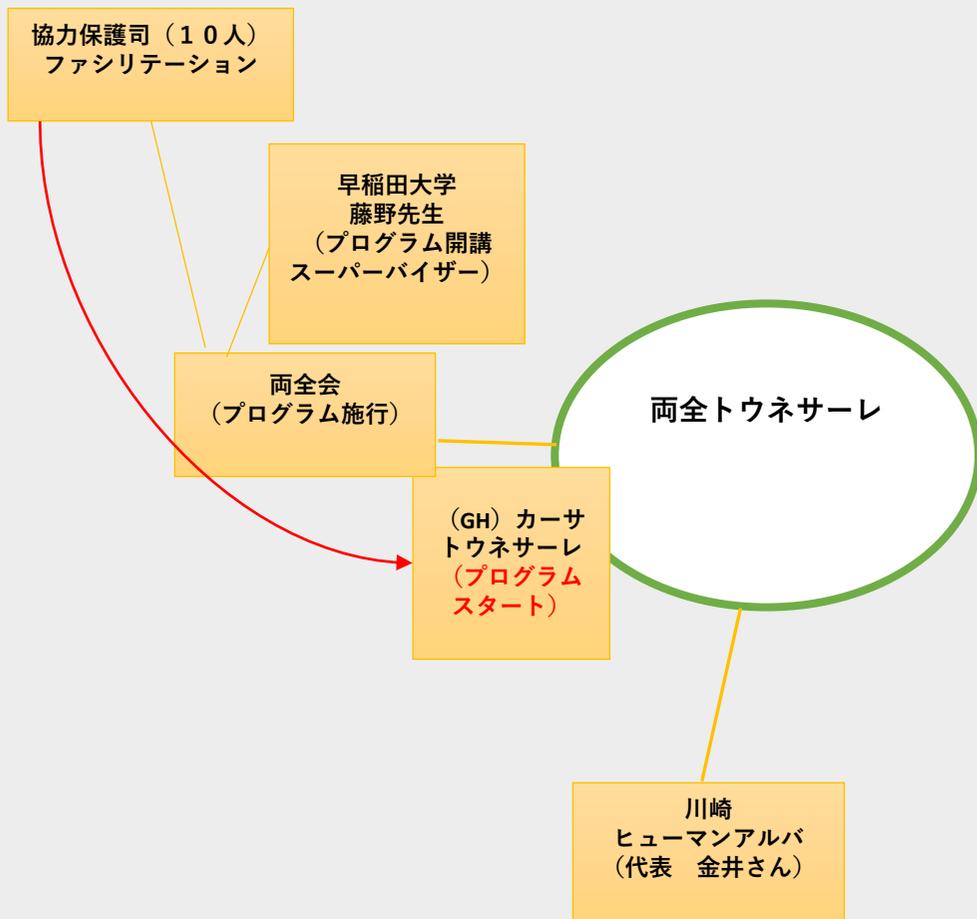
アウトプット 0401	アウトプット   依存的窃盗症者（リ・コネクト受講終了者含む）が、自助グループ活動に参加している。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■グループワークの場所提供と体制整備 ■福祉機関に自助グループを説明し、該当者の紹介依頼を実施する。 ■自助グループへ繋げ生活基盤が整った被支援者に対して自立支援を行う		
指標	初期値	目標値	実績値
①活動場所の数	①0カ所	①4カ所 (Zoomでの自助グループ含む)	①5カ所（当法人GH含む） 更生保護施設両全会、 グループホームジラソーレ（当法人）、 (株)ヒューマンアルバ、 (株)建築家さん、 駒木野病院 <b>【目標値達成】</b>
②自助グループ活動参加人員	②0人	②30人～50人	②27人 <b>【目標値未達成】</b>
③②のうち、リ・コネクト終了者数	③0人	③25人	③12人(一部終了者5人) <b>【目標値未達成】</b>

### 3-4 外部との連携の実績

【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】

■ エコマップ色分け

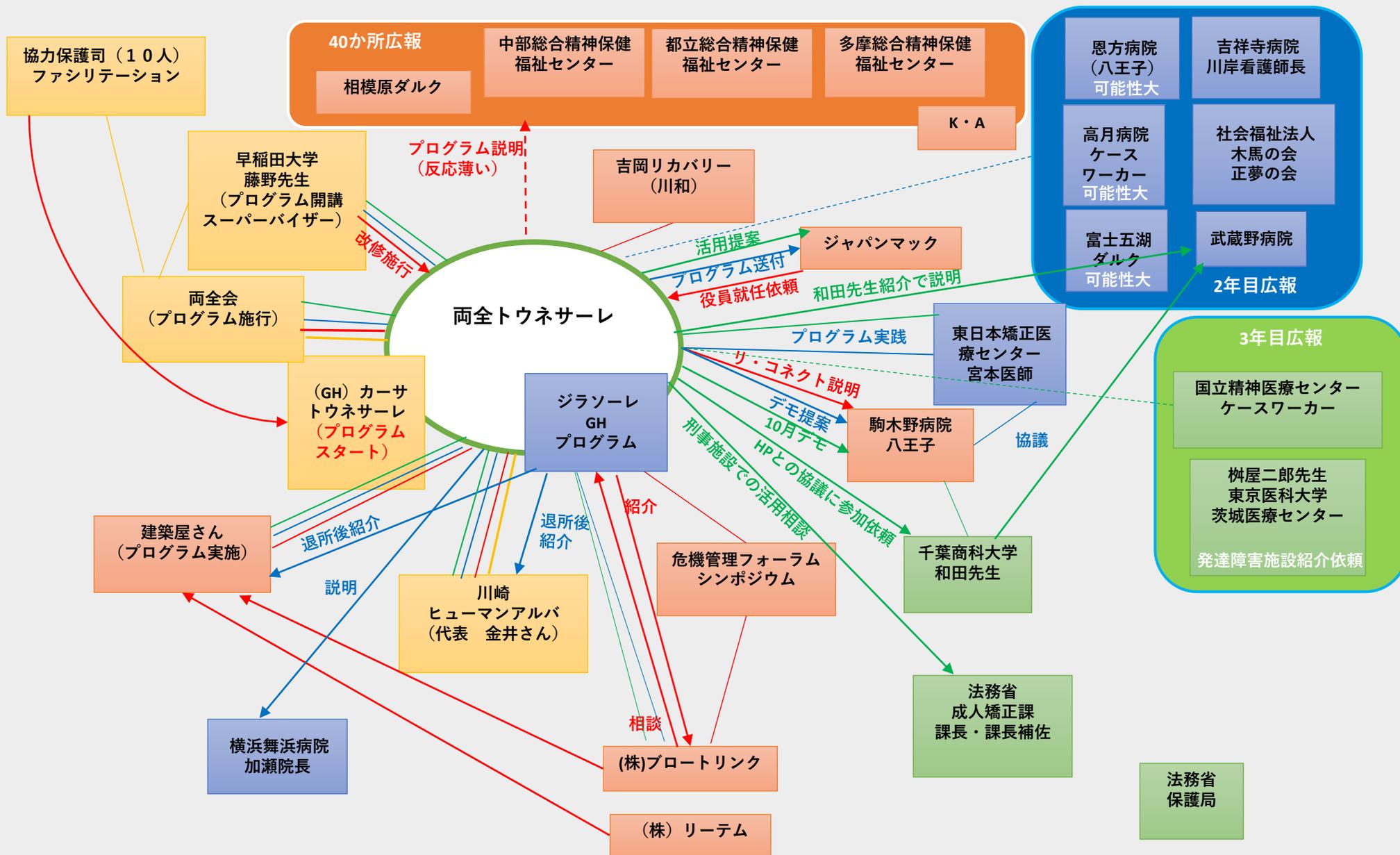
助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



### 3-4 外部との連携の実績 【事業3年目のエコマップ：2022年9月時点】

■ エコマップ色分け

助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



## 外部との連携の実績

### ■1年目

- ・積極的な広報と説明を実施した。しかしながら、コロナウィルスの影響等から結果が出に状態が続いた。  
既存事業の関連団体から紹介を受けるなど、鋭意努力した結果、株式会社ヒューマン・アルバ等のプログラム実施が可能となった。

### ■2年目

- ・引き続き、広報活動等を実施したが、相変わらずコロナウィルスの影響等により困難を極めた。
- ・当法人アドバイザーの社会福祉士から駒木野病院を紹介され、り・コネクトプログラムに関する説明やこれまでの両全会での試行概要について説明した。  
ところ、協議や実施する場合の連携等について打ち合わせを継続することで合意した。

### ■3年目

- ・駒木野病院との継続協議を経て、デイケアセンターでのセッションを試行的に実施することとした。
- ・八王子ダルク等のダルク施設及びジャパンマックとの協議を開始し、重複依存症者へのり・コネクト活用について依頼し、職員等への導入研修を実施した。
- ・ジャパンマックでのり・コネクトプログラム活用を試行的に実施し、さらに同団体の一般公開講座にてり・コネクトプログラムの説明・質疑応答を行った（令和4年12月23日）。
- ・刑事施設特別改善指導へのり・コネクト導入を法務省矯正局へ依頼し、2022年11月に矯正研修所にて職員研修を実施した。
- ・都立中部総合精神保健福祉センター及び都立総合精神保健福祉センターへデイケアでのり・コネクト活用を説明依頼した。対象者相談者が出た段階で連携していくことで今後も調整していくこととした。
- ・その他更生保護施設数か所にてフォローアップ事業の中でり・コネクトプログラムの活用が始まっている。

# 4. アウトカムの分析

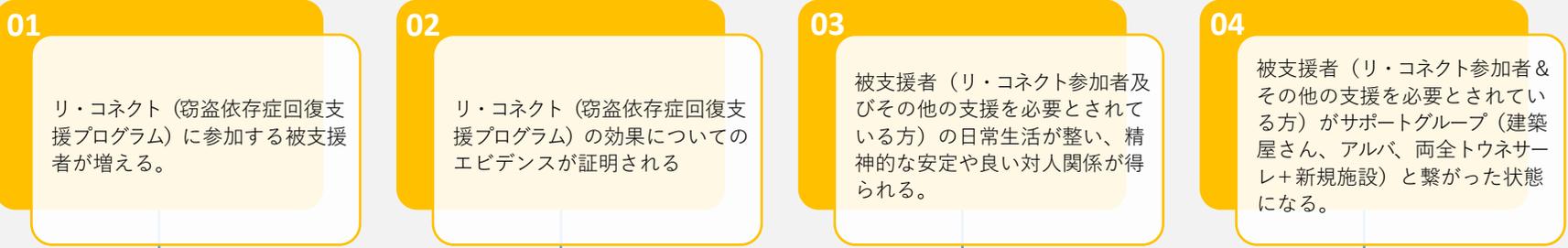
## ロジックモデル

## 【依存的窃盗症者への再社会化支援事業】

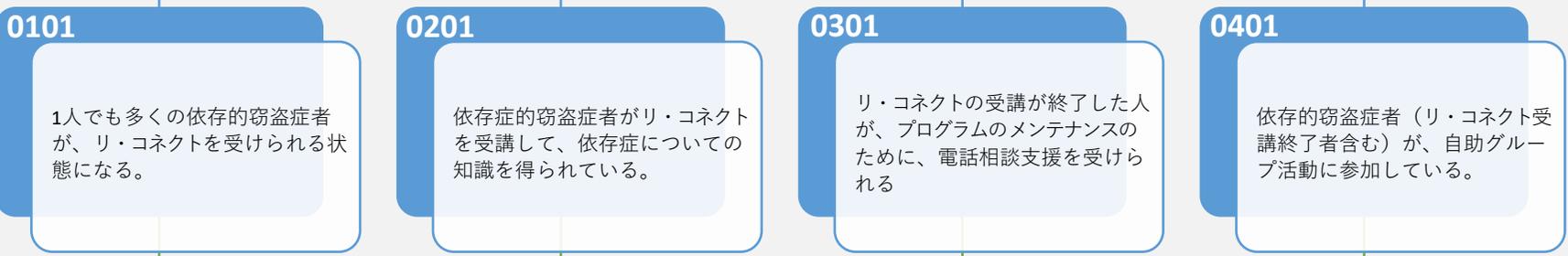
### 中期 アウトカム

東京・神奈川・埼玉・千葉及び大都市圏において、  
依存的窃盗症者等が、自らの窃盗依存症の問題と向き合い続けられる状態になる。

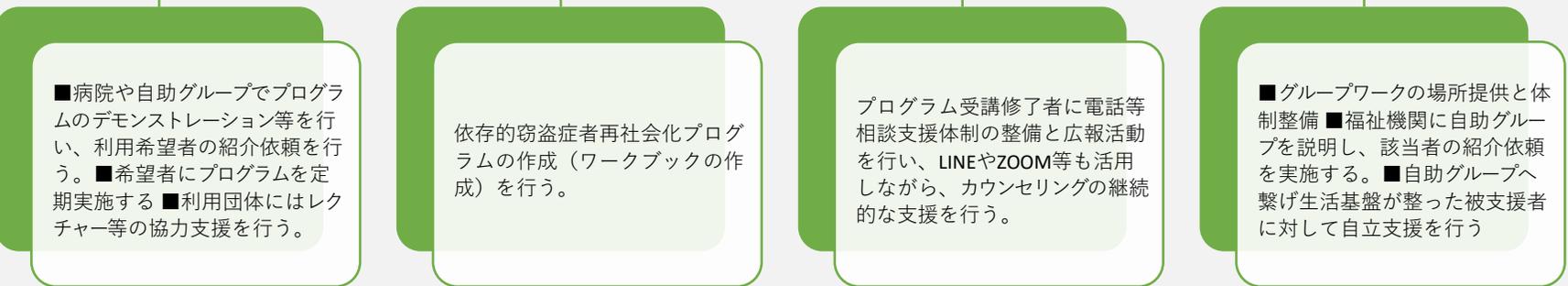
### 短期 アウトカム



### アウトプット



### 活動



## 4-1 アウトカムの達成度

### (1) アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 01	リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）に参加する被支援者が増える。 目標達成時期   2023年1月		
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
<p>①自団体においてリ・コネクト再社会化プログラムを実施する施設数</p> <p>②リ・コネクトを受講する被支援者の数</p> <p>③リ・コネクトプログラムの終了率 (受講者が離脱せずプログラムの最後まで受講できた割合)</p>	<p>①試行実施段階 (事業当初) 0施設 (両全トウネサーレ、 両全会を除く)</p> <p>②試行的実施者10人 (年間)</p> <p>③0人</p>	<p>① 4 施設</p> <p>② 20～30人(年)、 常時10～20名実施</p> <p>③10～15人 (補足：②20～30 人中の10～15人終 了率は50%)</p>	<p>①4施設(4か所) <b>【目標値達成】</b> (ヒューマンアルバ、建築家さん、ジャパンマック(東京・福岡)、駒木野病院において実施、目標値は達成した。)</p> <p>② 3年間で47人(常時15～17人に実施) <b>【目標値未達成】</b></p> <p>③59.6% <b>【目標値達成】</b> ※3年間の受講者数47人中、プログラムの最後まで受講した人は28人。 ※計画書目標値は10～15人と記載していたが、指標は終了率であり、目指していた終了率は50%(②20～30人中の③10～15人)である。</p>

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）																								
リ・コネクト（窃盗依存症者回復支援プログラム）のエビデンスが得られる	エビデンスはない	プログラムの効果についてのエビデンスが得られた	<p>（エビデンス獲得に関して）【目標未達成】 ⇒エビデンス獲得に向けた効果測定を進めている段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価の過程で、プログラムの活用団体を拡充していくために、プログラムが有効であるとのエビデンスを得て、広報活動することが重要であると考え、本アウトカムを追加した。</li> <li>事業期間の慥愧間が少ないことから、これまでリ・コネクトプログラムを受けた対象者に対し、2022年度6月から、リ・コネクトを1クール終了した人47名中、アンケート結果の公表に同意した30名に対し、その後の状況についてアンケートを実施した。（1クール終了時点での振り返り、終了後3ヶ月後、6ヶ月後の状況を振り返って、それぞれ回答</li> <li>2022年9月以降、プログラムを開始した人には、プログラム開始時と終了時にもアンケートを実施、その後も終了後3ヶ月、6ヶ月後にアンケートを実施することとした。</li> </ul> <p>★このようにプログラムの有効性の証明に向けて取り組んできたところであるが、以下のとおり課題があり、今後エビデンス集積の方法を再検討したいと考えている。</p> <p>【課題】本来であれば、厳密なエビデンスを得るためには、プログラム受講群と非受講群とを分けて比較対象実験をする必要があるが、再犯防止の観点から、支援を希望している人の中に、非受講群を作ることが好ましくないと考え、実施できていない。</p> <p>▼アンケート調査を実施した30人の結果（一部抜粋・詳細は最後に添付）</p> <p><b>「窃盗行為は他者のせい・大したことではないと思う人」</b>  （「そう思う」と答えた人数＋「どちらでもない」と答えた人のうち、「最初は罪悪感があったが、薄らいだ」等の理由を述べた人数）</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>大したことではない</td> <td>（プログラム終了時）</td> <td>8人</td> <td>61.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（終了後3か月）</td> <td>13人</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（終了後6か月）</td> <td>19人</td> <td>78.9%</td> </tr> <tr> <td>他人のせい</td> <td>（プログラム終了時）</td> <td>9人</td> <td>64.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（終了後3か月）</td> <td>12人</td> <td>70.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（終了後6か月）</td> <td>18人</td> <td>78.3%</td> </tr> </tbody> </table>	大したことではない	（プログラム終了時）	8人	61.5%		（終了後3か月）	13人	76.9%		（終了後6か月）	19人	78.9%	他人のせい	（プログラム終了時）	9人	64.2%		（終了後3か月）	12人	70.6%		（終了後6か月）	18人	78.3%
大したことではない	（プログラム終了時）	8人	61.5%																								
	（終了後3か月）	13人	76.9%																								
	（終了後6か月）	19人	78.9%																								
他人のせい	（プログラム終了時）	9人	64.2%																								
	（終了後3か月）	12人	70.6%																								
	（終了後6か月）	18人	78.3%																								

指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）
<p>①リ・コネクトを受けた人のうち、規則正しい生活（朝起きて夜眠る、三食きちんと食べる）が送れるようになった人の割合</p> <p>②リ・コネクトを受けた人のうち、プログラムを受けたことで、盗みをしていた時の自分の心境を理解できるようになったと感じた人の割合</p> <p>③電話による支援を受けている人のうち、「不安感や焦燥感が軽減した」と感じた人の割合</p>	<p>0%</p>	<p>①80% （事前と比べて事後の値が良い人の割合）</p> <p>②90%（同上） （測定方法：受講者に対し、事前・事後を比較した形でアンケートを取る）</p> <p>③100% （電話等利用支援の最後に「電話をする前より、不安な気持ちや焦りが軽減しましたか？」を確実に徴取し、その回答を正確に記録に取る）</p>	<p>以下アンケート調査から（回答者30人中）</p> <p>①76.7% <b>【目標値は惜しくも未達成】</b> （事前と比べ生活状況が良好になった人 21人（あてはまる・だいたいあてはまるの回答者の現在状況：睡眠18人、食事21人であるが、就業等の関係から食事を採用）</p> <p>▼朝起きて夜眠るという生活はどうでしたか？ 16人が良くなったと回答（とても当てはまる）「だいたい当てはまる」と答えた人の数：当時→受講前2人、現在→受講後18人）</p> <p>▼三食きちんと食事を取っていますか？ 21人が良くなったと回答（「とても当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた人の数：当時→受講前2人、現在→受講後23人） ※特に、食事について大幅な改善が見られている。</p> <p>②56.7% <b>【目標未達成】</b> 理解できるようになった人 17人 56.7% （アンケートで現在、「理解している」「だいたい理解している」「分かったと思うが自信がない」と答えた人を集計。当初70%が理解していなかった状態からは改善している） ⇒どんな点が良かったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識が深まった 6人 20.0%</li> <li>・行動や考えが広がった 8人 26.7%</li> <li>・対処法が身についた 9人 30.0%</li> </ul> <p>③39.3% <b>【目標未達成】</b> 不安な気持ちや焦りが軽減したと回答した延べ人数 期間中電話等相談者延べ人数138回/人、 相談終了時回答のあった延べ人数65回 ⇒回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安等解消、だいたい解消 27回/人 42.2%</li> <li>・解決しなかった、あまり解決しなかった 19回/人 29.7%</li> <li>・どちらでもない 19回/人 29.7%</li> </ul>

短期アウトカム 04	被支援者（リ・コネクト参加者&その他の支援を必要とされている方）がサポートグループ（建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設）と繋がった状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）
①リ・コネクト受講者のうち、サポートグループにつながって、プログラムのメンテナンスを受けている人の割合	①0%	①50%	①57.4% <b>【目標値達成】</b> リ・コネクトを受講した47人中、各支援団体への参加者総数のうち6か月以上継続参加している28人
②サポートグループ（建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設）参加者のうち、「ここに居場所がある」「安心感が感じられている」を感じている人の割合	②0%	②90%	②20.0% <b>【目標値未達成】</b> アンケート調査30人中25人が回答 回答率 83.3% <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても安心、まあ安心 6人 24.0%</li> <li>・安心な場所でない。まあ安心な場所でない 11人 44.0%</li> <li>・どちらでもない 8人 32.0%</li> </ul> ※補足 サポートグループに参加した理由（回答21人中） <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安・寂しさ等の解消とするポジティブ意見 8人 38.1%</li> <li>・暇つぶし等ネガティブ意見 13人 43.3%</li> </ul> ⇒触法者のサポートグループとの繋がりにくさが想定以上の支障となった。同行支援などの強化を図ることとしたい。

## (2) アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている	<p>コロナウィルスの影響等があったが、リ・コネクト実施団体及び受講者も初期目標をおおむね達成できている。</p> <p>電話相談システムは、簡便なZOOMやLINEへ変更したが、利用状況は想定を下回ったものの、35人が利用した。</p> <p>自助グループ活動へのつながりがうまくいかず、ヒューマン・アルバや健康家さんにとどまった。</p>
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値が達成できている	
<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている	
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	

### 4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】	
<p><b>実際に事業で使った金額と種類</b></p> <p>合計 10,618,753 円 ※2023年4月末 推定値</p>	<p>事業費：10,345,442 円 (内訳 直接事業費：9,552,139 円 / 管理的経費：793,303 円) ※上記事業費には、自己資金：2,072,808 円 を含む 評価関連経費：273,311 円</p>
<p>リ・コネクトプログラム作成及びその広報等については、概ね達成できたものと認識している。しかしながら、コロナウィルス感染症の影響が全事業期間を通じて、大きな制約となり、サポートグループへの引継ぎや、病院等のデイケアへの展開が当初事業予測とおりに展開できなかった。ただし、3年目において、駒木野病院やジャパンマック、ダルク等へのリ・コネクトプログラムの浸透が出来ており、予定団体数はクリアできたものと考えている。</p> <p>電話相談等については、当法人ホームページからのアクセス、チャットの利用が多く、当初予定していたシステム利用は中止し、インターネット経由、LINE等のSNS利用に方針を転換したところ、一定数の利用があり、利用者アンケートでは、効果ありや良かったとする利用者が半数程度であった、利用者は気分転換や、不安感、寂寥感からアクセスして生きていると思われる。こういったニーズも踏まえ、また、遠方に帰住した利用者の支援継続のためにも、自助的グループ活動やプログラムの個別的な実施に関して、コロナ助成により情報端末等の整備を行い、リモート支援の活性化を行うことができた。</p> <p>課題としては、盗癖等の問題行動を軽く認識し、リ・コネクトプログラム受講への発展が低いものがあった。</p>	

### 特に社会課題解決に貢献したアウトカム

#### 【アウトカム】

- 01 リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）に参加する被支援者が増える
- 02 リ・コネクト（窃盗依存症回復支援プログラム）の効果についてのエビデンスが証明される
- 03 被支援者（リ・コネクト参加者及びその他の支援を必要とされている方）の日常生活が整い、精神的な安定や良い対人関係が得られる。
- 04 被支援者（リ・コネクト参加者&その他の支援を必要とされている方）がサポートグループ（建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設）と繋がった状態になる。

#### 【要因】

- 01 全く前例のない事業であり、社会一般の認知もないところ出発したが、47人の数を得た。
- 02 リ・コネクト受講者へのアンケート調査を行った。回収率は63.8%程度であったが、「自分の認知の仕方や感情のコントロールの在り方に気づきがあった」、「否定的な考えへの対応策を見つけた」等の自己知覚を示している。
- 03 アンケート回答では日常生活に関して、金銭的な困難や就労に関する問題を有している実情が分かった。リ・コネクト実施と同時に就労支援や職業スキルアップの支援が必要である。
- 04 これもアンケート調査からであるが、クレプトマニア・アノミマス等サポートグループとの繋がりが低調であった理由として、自己に対する負のステイグマ貼りや、家族等の周囲に知れること危惧するなどがあり、自助グループ等への同行支援や当法人での自助活動の推進、あるいは家族支援も必要であると痛感した。

## 特に達成が困難であったアウトカム

### 【アウトカム】

- 04 被支援者（リ・コネクト参加者&その他の支援を必要とされている方）がサポートグループ（「建築屋さん」（企業）、  
「ヒューマン・アルバ」（依存症回復支援施設）、両全トウネサーレ+新規施設）と繋がった状態になる。

### 【課題】

コロナウィルスの影響等もあり、当初、クレプトマニア・アノニマス（KA窃盗依存症者の自助グループ）等の自助グループへの繋ぎはほとんど困難であったまた、自助グループはプログラム実践の場ではないとの指摘もあった。そこで当法人グループホームでのリコネプログラムのグループワークを強化するとともに、神奈川県川崎市の依存症回復支援施設である「ヒューマン・アルバ」等の自助活動へ繋ぐことを鋭意努力した。しかしながら、被支援者の自己に対する負のスティグマ貼りや経済的な問題から自助活動参加に支障があり、（パート、アルバイト等の優先）、抜本的な問題解決に至らなかった。そこで、市役所等の福祉窓口へ同行支援し、生活保護の受給を得て生活の安定化を図った。今後の課題としては、被支援者の就労移行支援や職業スキルアップの同時支援体制の構築が必要であると認識した。自助グループは対面で集まることを重視する傾向もあるが、リ・コネクトは個人で進めることもでき、オンラインでのフォローアップも可能なプログラムである。そういった利点とともに、プログラム実施の意義を自助グループに伝えていく必要性も感じている。

## 5. 考察

### 事業全体を振り返っての考察

当法人が開発した「リ・コネクト（依存的窃盗症者向けの回復プログラム）」の取り入れ・活用については、更生保護施設も、事業開始当初は、マンパワーの問題や対象者の掘り起こしの問題などから、冷ややかな反応が多かったが、その後最近の動き、例えば更生保護施設退所者に対するフォローアップ支援事業の展開や、更生保護施設に入所中の者に対する対象者への処遇の強化の要請もあって、数か所の更生保護施設からプログラム提供の要請があり、リ・コネクトプログラムを提供した。

さらに、行政機関では、東日本成人矯正医療センターの精神科医師が、リ・コネクトプログラムを実践しており、相応の効果があったとの連絡を受けている。この実例を踏まえ、法務省矯正局にプログラムに関して説明したところ、令和4年6月に成立した刑法改正により「懲役・禁固刑」から「拘束禁刑」への転換が図られることとなったことから、それに対応するに~~よる~~よる処遇の強化策として検討するとされた。そのことを踏まえ、令和4年11月に矯正研修所において、刑務官等法務省職員に、リ・コネクトプログラムに関する研修が実施された。

## 事業全体を振り返っての考察

- ① リ・コネクトプログラムは、1度受ければ終わりではなく、それを内面化させるためには定期的なメンテナンスが欠かせないことが、アンケート結果から再確認できた。また、本プログラムは繰り返し実践し、円環的に自己確認できるものとなっている。
- ② 対象となる人が、住んでいる地域の、また転居する先の地域の、どこにいても（更生保護施設・グループホーム・自立後の通院先やデイケアなど）様々な関係機関において窃盗依存症回復プログラムを受けられる状況にあれば、対象となる人が再犯に至ることなくより良い生活を維持できる可能性が高くなることも、プログラム終了後の期間別アンケートから明らかになっており、今後も本プログラム実施団体が増えていくための努力を傾注したい。
- ③ 実施当初の関係団体の反応は、
  - (1) リ・コネクトプログラム（窃盗依存症者の回復支援プログラム）について、精神保健福祉分野を中心に、関係すると思われる機関・団体を訪問して説明しても、多くの団体は「窃盗って依存症なの？」という反応であり、治療及び支援対象との認識は低調であった。
  - (2) 再犯防止という視点を絡めると、ますます「それは、うちじゃないね（司法だね）」と言われることが多く、福祉と司法の融合が未だ未熟であり、この点での啓蒙活動も必要であると認識した。
  - (3) 東京都の精神保健福祉センターではある程度の理解を深めることができた。また、同所から広報先として適正と思われる団体・機関をご教示いただけたが、3年間で84カ所延べ128回、訪問して説明・広報したが、「プログラムを見せて欲しい」という反応は半分くらいであった（もっと高いと思っていたのでショックだった）。このことから、窃盗依存症者に対する理解を得る（広げる）ことがいかに難しいことかを思い知った。「窃盗って犯罪ですよね」「窃盗って依存症ではないのでは？」と考える精神保健分野の専門家も多く、司法の世界の話だととらえられることも多かった。
  - (4) そもそも窃盗依存症者は相談機関につながっている人がきわめて少なく、相談につながったとしても家族ばかりで本人は繋がっていないことが多いことも分かり、プログラムの中に家族カウンセリングのセッションを追加する必要性も認識した。
- ④ 広報啓発に回る中で、現場の支援スタッフの方と話すより、まずは所長など管理的な立場の方と話すことで効果が上がることがわかってきた。
- ⑤ 東京・八王子にある駒木野病院など、リ・コネクトプログラムの活用に関心を示してくれた医療機関との協議では、窃盗依存症者の支援ツールがこれまでになかったことがその要因として考えられるとの指摘もあった。
- ⑥ 窃盗依存症者は他の依存と重複していることも多く（飲酒+窃盗など）、飲酒プログラムに窃盗プログラムを乗せるのは意味があると考えてもらえるようになった。

## 事業全体を振り返っての考察

- ⑦ KA（クレプトマニア・アノニマス）など窃盗依存症者の自助グループにも働き掛けを行ったが、先方からは、アノニマスは当事者が寄り添うところであってプログラムをやるところではないという説明があり、AA（アルコールリクス・アノニマス（アルコール依存症者の自助グループ））やNA（ナルコティクス・アノニマス（薬物依存症者の自助グループ））などでは12ステップなどプログラムの要素を取り入れているが、KAはそうではないということを知った。
- ⑧ 対象者の多くは就労に制約を伴うことが多く、生活保護の受給や障害者グループホームの利用など福祉のセーフティーネットに繋がった上で、プログラムを実施する必要がある、市役所の福祉担当課等へ同行するなどの支援も必要である（実際に支援もした）。
- ⑨ 被支援者にパートナー等の家族がいる場合で、プログラムを受けることを家族に知られたくないとする者もあり、情報漏洩に最新の注意を払う必要がある。例えば、インターネットチャット、ZOOMやLINEを利用して支援を継続する場合、こちらの時間に合わせて行うことが無理な場合もある。そういった場合にも支援を継続することを最優先する必要がある。

## 6. 結論

### 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性		○			
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性			○		
3. 事業実施のプロセス			○		
4. 事業成果の達成度			○		

### 6-2 事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

- ・課題やニーズの適切性については、刑余者以外の被支援者の発掘が難しい実情があったため、このように評価した。
- ・事業設計の整合性については、窃盗依存症についてのニーズはあるものの重複障害者が多く、主たる病気を改善することが先決であるということが、事業を進める中でわかってきたため、また、家族支援の必要性もあることからこのように評価した。
- ・事業実施のプロセスについては、まずは、リ・コネクトプログラムを周知する必要がある、と考えこのように評価した。
- ・成果の達成度についても、一応の効果は認められたが、社会定な認知が想定以上に低かったという点で、上記評価とした。

窃盗依存の場合、刑法上の犯罪者とのスティグマを周囲も本人も貼り付けることから、自ら相談に来ようとする人は少なく、家族も世間体を気にするなどの傾向を認識した。精保センター等との協議でもニーズの問題が指摘された。ただ、需要が全くないわけではなく、窃盗依存の場合には、支援や治療が必要なことを社会一般に周知する必要性を痛感した。事業自体の社会的問題の解決という観点からは妥当なものであったと考えている。

## 7. 資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.35
2	リ・コネクト受講者アンケート <様式>	p.36~37
3	同上 <結果まとめ>	p.38~58
4	リ・コネクトプログラム掲載記事	p.59

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1 (1) 再社会化のためのプログラムを受けることにより、規則正しい生活ができるようになり、生活上の問題に適切に対応できるようになる。	①再社会化プログラムを受けた人のうち、支援期間中に窃盗行為の無かった人の割合 ②再社会化プログラムを受けた人のうち、「規則正しい生活が送れるようになった人の割合	①10人 ②なし	①70% ②80%	2022年12月 2023年1月
(2)継続的安定的な支援を受けることにより、ストレスを適切に解消できるようになるなど、精神的な安定が得られる状態になる。	再社会化プログラムを受けた人のうち、プログラムによって精神的な安定が得られていると感じている人の割合	なし	90%	2023年1月
(3)継続的安定な支援を受けることにより、家屋関係や職場環境での対人関係に自信を持ち、自立した生活が送れるようになる。	①再社会化プログラムを6ヶ月以上継続して受けている人の割合 ②①のうち就労環境や家族関係が改善した人の割合	①継続率50% ②なし	①初期値より20%アップ ②定着率50%	2023年1月 2023年1月
(4)地域の様々な施設・機関・団体・クリニック等において、依存症的窃盗症者再社会化プログラムを受講することができる状態になる。	再社会化プログラムを受講できる施設の数	現状1施設	協働団体3施設以上	2023年1月
2 不安感や焦燥感が生じたときタイムリーに電話支援システムでカウンセリングを受けられることにより、心身の健康増進維持や日常生活の不安が軽減され自制した生活が送れるようになる。	①電話による支援を受けている人のうち、再犯のない人の割合 ②電話による支援を受けている人のうち、「不安感や焦燥感が軽減した」と感じた人の割合	なし	①70% ②100%	2023年1月 2023年1月
3 自助グループ活動に参加して、地域における居場所を得て、サポートグループと繋がった状態になることにより自立的な生活ができるようになる。	①自助グループに参加している人のうち、「ここに居場所がある」、「安心感が得られる」と感じられている人の割合 ②自助グループに参加している人のうち、自立的な生活が送れるようになった人の割合	①なし ②なし	①90% ②90%	2023年1月 2023年1月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1 リ・コネクト(窃盗依存症回復支援プログラム)に参加する被支援者が増える。	①自団体においてリ・コネクト再社会化プログラムを実施する施設数 ②リ・コネクトを受講する被支援者の数 ③リ・コネクトプログラムの終了率(受講者が離脱せずプログラムの最後まで受講できた割合)	①試行実施段階(事業当初)0施設(両全トウネサーレ、両全会を除く) ②試行的実施者10人(年間) ③0人	①4施設 ②20~30人(年)、常時10~20名実施 ③10~15人	2023年1月
2 リ・コネクト(窃盗依存症者回復支援プログラム)の効果についてのエビデンスが証明される	①リ・コネクト(窃盗依存症者回復支援プログラム)のエビデンスが得られる。	①エビデンスはない	①プログラムの効果についてのエビデンスが得られた	2023年1月 2023年1月
3 被支援者(リ・コネクト参加者及びその他の支援を必要とされている方)の日常生活が整い、精神的な安定や良い対人関係が得られる。	①リ・コネクトを受けた人のうち、規則正しい生活(朝起きて夜眠る、三食きちんと食べる)が送れるようになった人の割合 ②リ・コネクトを受けた人のうち、プログラムを受けたことで、盗みをしていた時の自分の心境を理解できるようになったと感じた人の割合 ③電話による支援を受けている人のうち、「不安感や焦燥感が軽減した」と感じた人の割合	0%	①80%(事前と比べて事後の値が良い人の割合) ②90%(同上) (測定方法:受講者に対し、事前・事後を比較した形でアンケートを取る) ③100%(電話等利用支援の最後に「電話をする前より、不安な気持ちや焦りが軽減しましたか?」を確実に徴取し、その回答を正確に記録に取る)	2023年1月
4 被支援者(リ・コネクト参加者&その他の支援を必要とされている方)がサポートグループ(建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設)と繋がった状態になる。	①リ・コネクト受講者のうち、サポートグループにつながって、プログラムのメンテナンスを受けている人の割合 ②サポートグループ(建築屋さん、アルバ、両全トウネサーレ+新規施設)参加者のうち、「ここに居場所がある」「安心感が感じられている」を感じている人の割合	①0% ②0%	①50% ②90%	2023年1月 2023年1月

両 トウネサーレ・リ・コネクト (プログラム) 受講者アンケート

【アンケートの目的】

- このアンケートは、リ・コネクト (プログラム) を受けて終了されたみなさまを対象に、いまの生活の様子などをお聞きすることで、リ・コネクト (プログラム) をよりよいプログラムにすることを目的としています。
- アンケートへの回答は自由です (ご協力いただける方、ご回答ください)。

★リ・コネクト (プログラム) を受ける前と後で、あなたの生活や考え方に変化があったかどうかを教えてください。

- 1 あなたは、**寝返**って、**起きる**生活を選んでいますか。
- 2 あなたは、**朝昼晩**と三食きちんと食べていますか。  
 <リ・コネクトを受ける前、リ・コネクトを受けたあと、現在>  
 (とてもあてはまる5、だいたいあてはまる4、どちらでもない3、あまりあてはまらない2、まったくあてはまらない1)
- 3 自分がどうして**空**みをするのか、自分の気持ちを**理解**していますか。  
 <空みをしていたとき、リ・コネクトを受けたあと、現在>  
 (とても理解している5、だいたい理解している4、どちらでもない3、あまり理解していない2、まったく理解していない1、わからない0)
- 4 もしよろしければ、空みをしていたときは、**どう**いう気持ちだったのか、教えてください。
- 5 リ・コネクト (プログラム) を受けたことは、あなたの**役**に立ちましたか。  
 (とても役に立った5、だいたい役に立った4、どちらでもない3、あまり役に立たなかった2、まったく役に立たなかった1、わからない0)
- 6 とても役に立った・だいたい役に立った、と答えた方におたずねします。  
 どの**う**ところで役にたつたと思えますか  
 (知識①、行動や考え方の理解②、対処法等③)
- 7 あまり役に立たなかった・まったく役に立たなかったと答えた方におたずねします。  
 どの**う**ところが役に立たなかったと思われますか。役に立たなかったと思われた理由を教えてください (プログラムをより良くするために、教えていただければ幸いです)。

15. 最後あなた**自身**のことについておろががいます。

問1 あなたの**年齢**について、次のなかからあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1) 20代 1 2) 30代 2 3) 40代 3 4) 50代 4 5) 60代 5  
 6) 70代 6 7) 80代以上 0

問2 **現在**、お仕事はありますか? ある ない

問3 **現在**一緒に暮らす人はいらつしゃいます いる いない

★★これでアンケートはおわりです。ご協力、ありがとうございました★★

リ・コネクト受講に関するアンケート調査のお願い!

リ・コネクトプログラムを「受講」しご自身の考えや思いが、プログラム終了時、3か月経過後及び6か月経過後に、変化があるか、あるとすればどのように変わったのかを教えてくださいとの思いから、このアンケートをお願いするものです。

☆ 各質問項目について

- そう思うは 1
  - そうは思はないは 2
  - どちらでもないは 0
- でお答えください。

☆ 質問項目

内容	回答 終了時	3か月後	6か月後
<b>1-1 窃盗行為</b>			
大したことでない			
仕方がなかった			
他者のせい			
害られる方が悪い			
悪いとは分かっている			
<b>1-2 プログラム</b>			
必要ない			
強制されるのは厭			
苦痛を感じる			
積極的に参加する			
自信はないが参加			
<b>2-1 窃盗の理由</b>			
経済音			
イライラ・不安			
寂しさ・孤独感			
何となく			
<b>2-2 自分の特性と窃盗</b>			
甘えたキモチ			
後先を考えない			
興味本位など			
困ったことへの対応ができない			
気持ちを制御できない			
見栄を張る			
不和協同的			
その他			
<b>3-1 再発の手段</b>			
自分の考えに気付く			
相談相手を見つける			
自分で決める			
自助グループへ参加			

<b>3-2 自分の意見</b>			
他者を褒められる			
有難うと言える			
自分の考えを伝える			
嫌と言える			
考えをまとめられる			
<b>3-3 怒りを感じる事</b>			
不平等な扱い			
期待が満たされない			
家族等の不平等な扱い			
自分の価値観などを傷つけられる			
他者の振る舞い			
批判される時			
嫌がらせを受けたとき			
寝ているとき			
<b>3-4 自分と向き合う</b>			
怒りを感じやすい			
心から楽しめない			
虐待(DV)体験がある			
相手に合わせられる			
なんでも自分のせいと感じる			
思いを伝えられない			
抑制的である			
自業自得と思う			
<b>3-5 対人関係</b>			
一方的に強いられる			
脅かされる			
何事も自分が悪い			
お金をせびられる			
性的な干渉を受ける			
不都合な原因を押し付けられる			
誘惑中傷される			
<b>4- 今後の生き方</b>			
一人で頑張る			
無理をしない			
相談できる人を見つける			
仕事を頑張る			
人を裏切らない			
自助グループ・電話相談を継続する			

# リ・コネクト実施分析

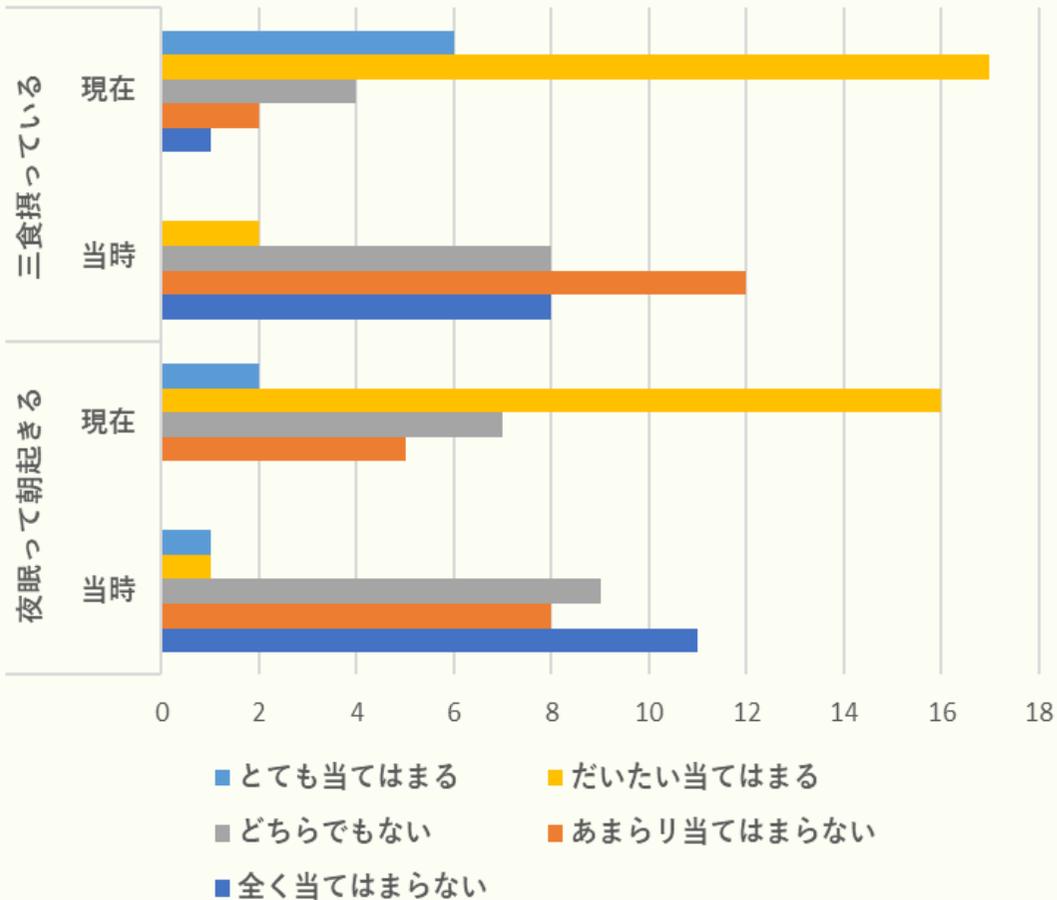
- アンケート等調査から
- リ・コネクト実施終了者中、アンケート回答者(公開)同意者30人の数値

特定非営利活動法人両全トウネサーレ

# 生活リズムの状況

受講前の生活は、睡眠、食事とも不規  
受講後は、食事の改善が大きい

睡眠・食事の生活リズムの推移

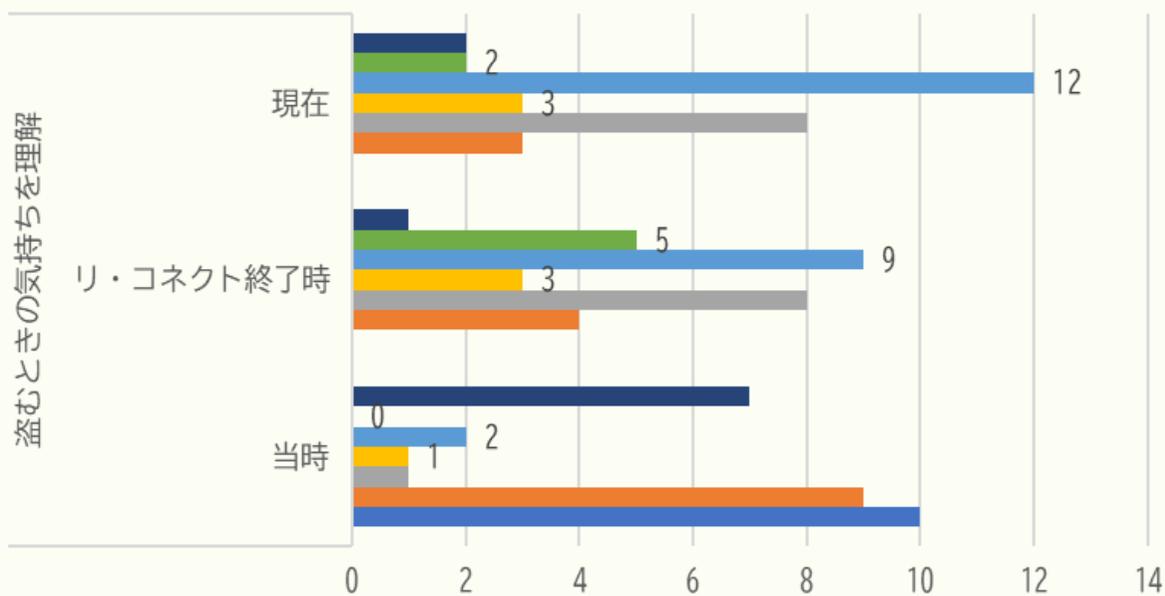


生活リズム	夜眠って朝起きる		三食摂っている	
	当時	現在	当時	現在
全く当てはまらない	11	0	8	1
あまり当てはまらない	8	5	12	2
どちらでもない	9	7	8	4
だいたい当てはまる	1	16	2	17
とても当てはまる	1	2	0	6

# 盗むときの気持ちを理解しているか

受講前まったく理解しない者が多いが受講後繰は、半数が理解できている

盗むときの気持ちの理解等



- 分からない
- だいたい理解
- 分かったと思うこともたまにある
- 全く理解していない
- よく理解
- 分かったと思うが自信がない
- あまり理解していない

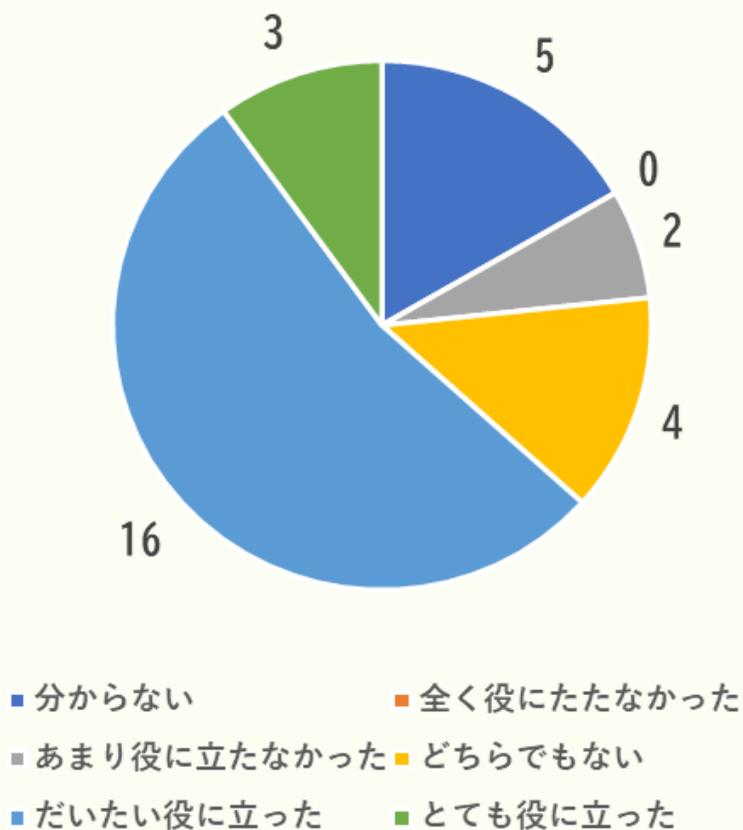
盗むときの気持ちを理解

	盗むときの気持ちを理解		
	当時	リ・コネクト終了時	現在
全く理解していない	10	0	0
あまり理解していない	9	4	3
分かったと思うこともたまにある	1	8	8
分かったと思うが自信がない	1	3	3
だいたい理解	2	9	12
よく理解	0	5	2
分からない	7	1	2

# リ・コネクトは役に立ったか

受講後、役に立ったとする者が約半数

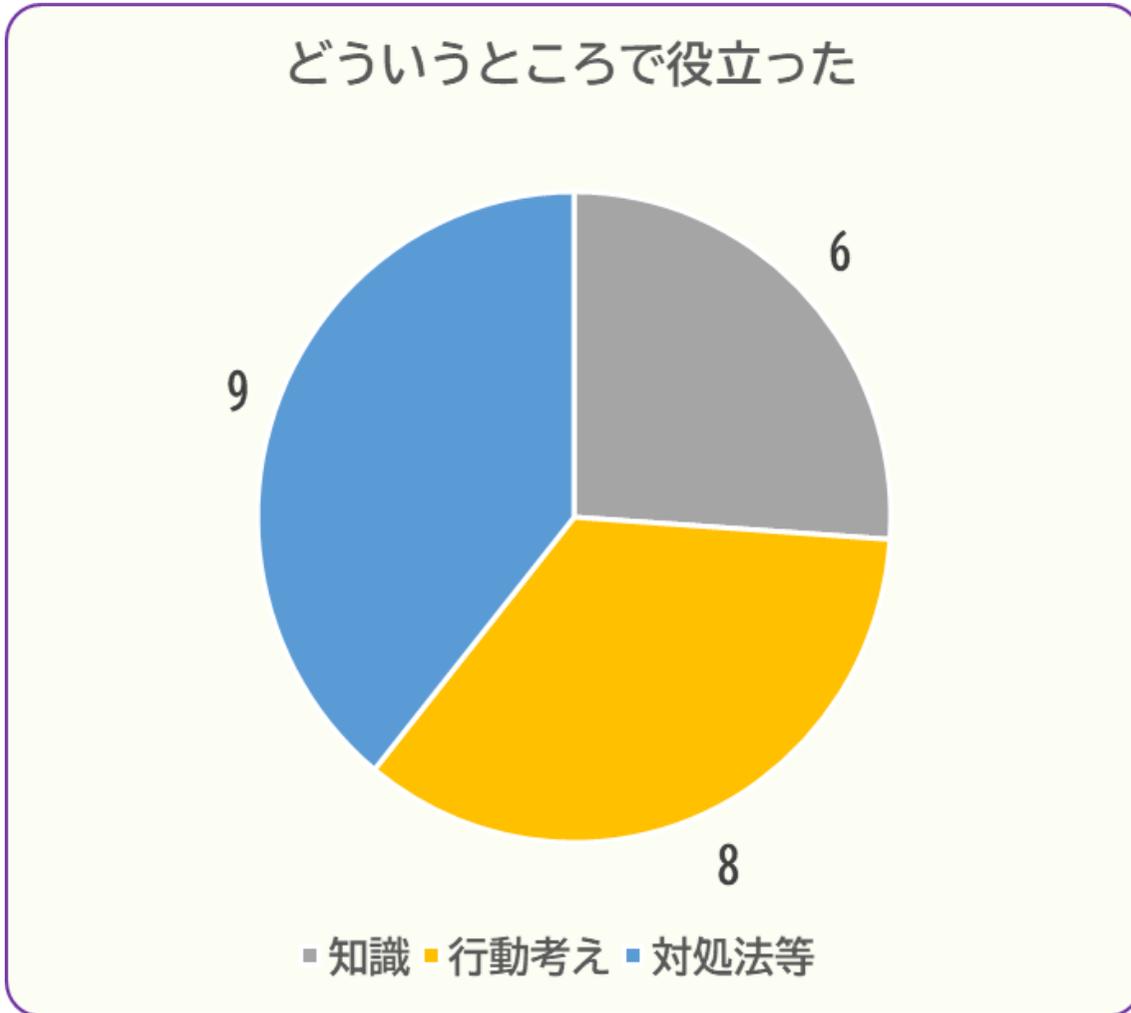
リコネは役に立った



5リコネは役に立った

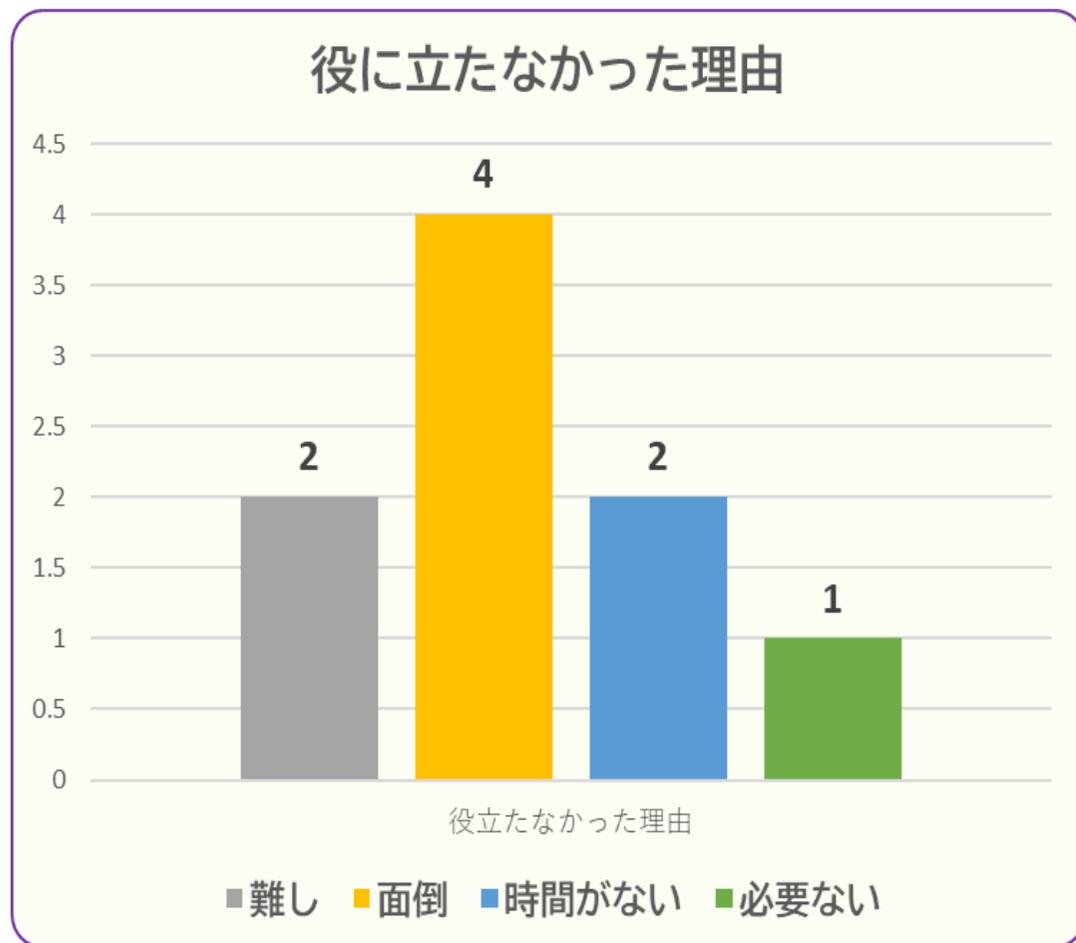
分からない	5	10.6%
全く役に立たなかった	0	0.0%
あまり役に立たなかった	2	4.3%
どちらでもない	4	8.5%
だいたい役に立った	16	34.0%
とても役に立った	3	6.4%

# プログラムはどのようなところで役にたったか



	どのようなところで役立った
知識	6
行動考え	8
対処法等	9

# プログラムが役に立たなかった理由

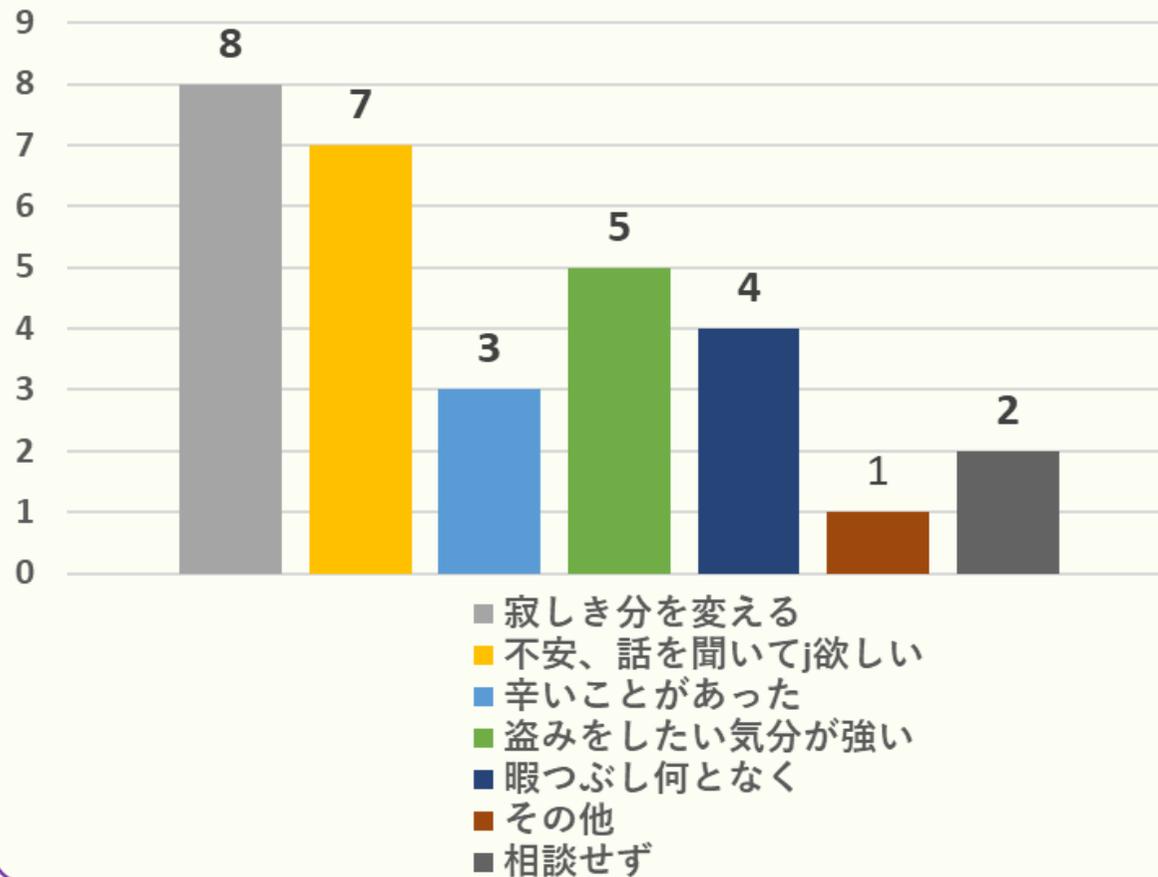


	役に立たなかった理由
難しい	2
面倒	4
時間がない	2
必要ない	1

# 電話等の相談について

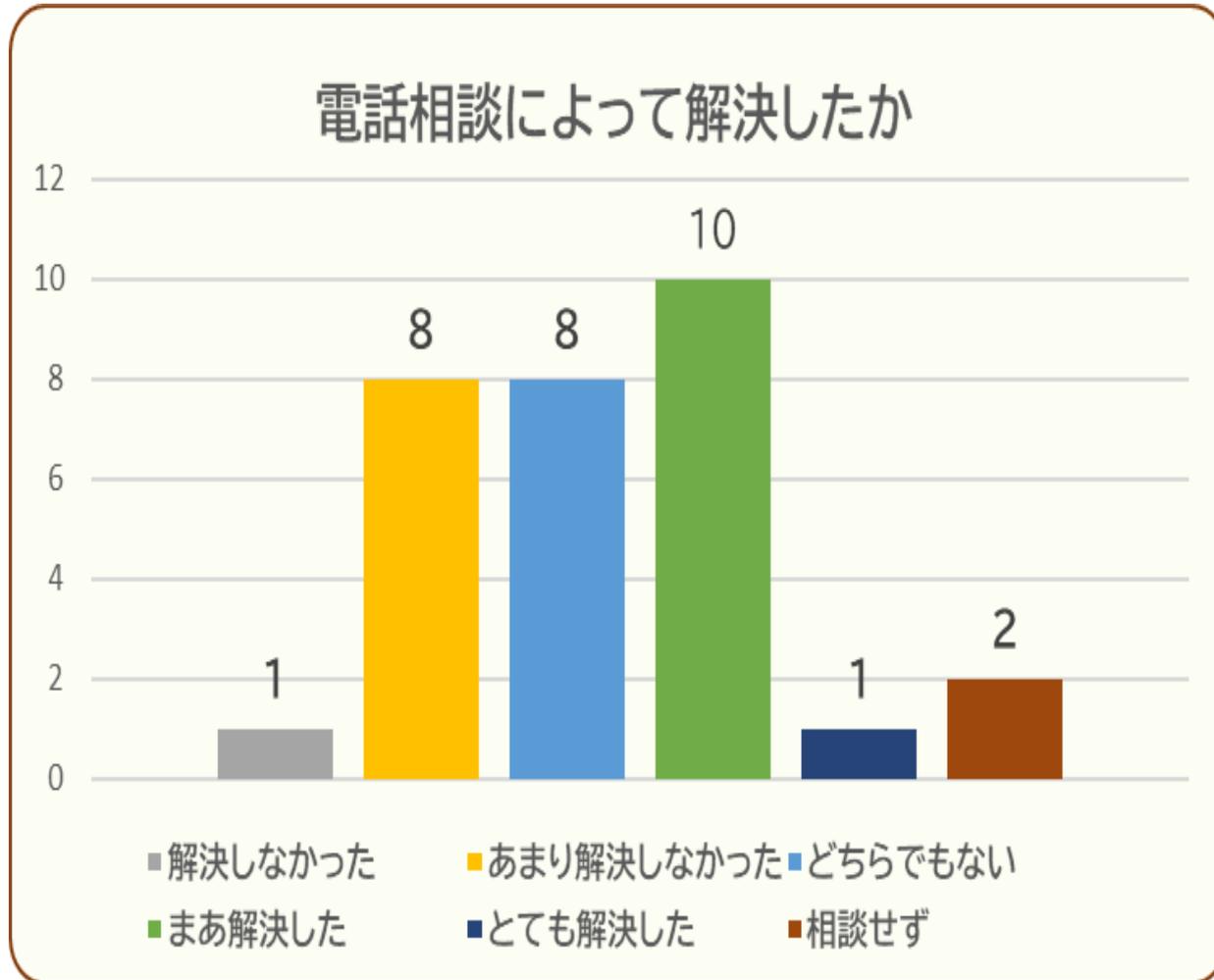
電話等での相談は、寂しさや不安のためとする者は多いが、盗みたい気持ちを抑えるためとする者は少ない

電話等相談に関して



	電話などどうして相談したか
寂しき分を変える	8
不安、話を聞いて	7
辛いことがあった	3
盗みをしたいたい気	5
暇つぶし何となく	4
その他	1
相談せず	2

# 電話相談の理由は解決したか

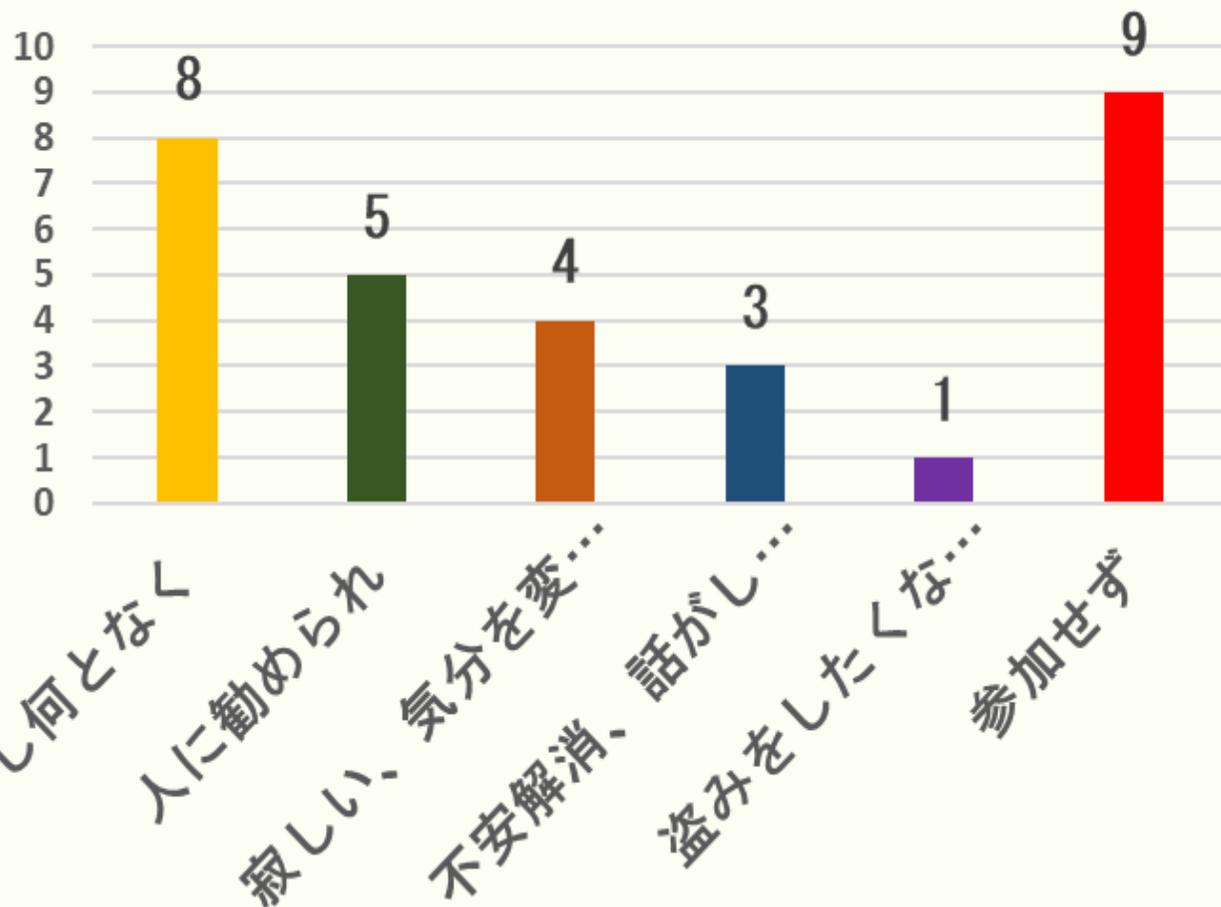


理由	人数
解決しなかった	1
あまり解決しなかった	8
どちらでもない	8
まあ解決した	10
とても解決した	1
相談せず	2

電話相談の理由は解決したか  
電話相談の理由を調査したところ、  
3割は解決できなかった、  
6割は解決した、  
1割はどちらでもない、  
1割は相談せず、  
1割は非常に解決した。  
相談した問題の大半は解決した。

# サポートグループに参加した理由

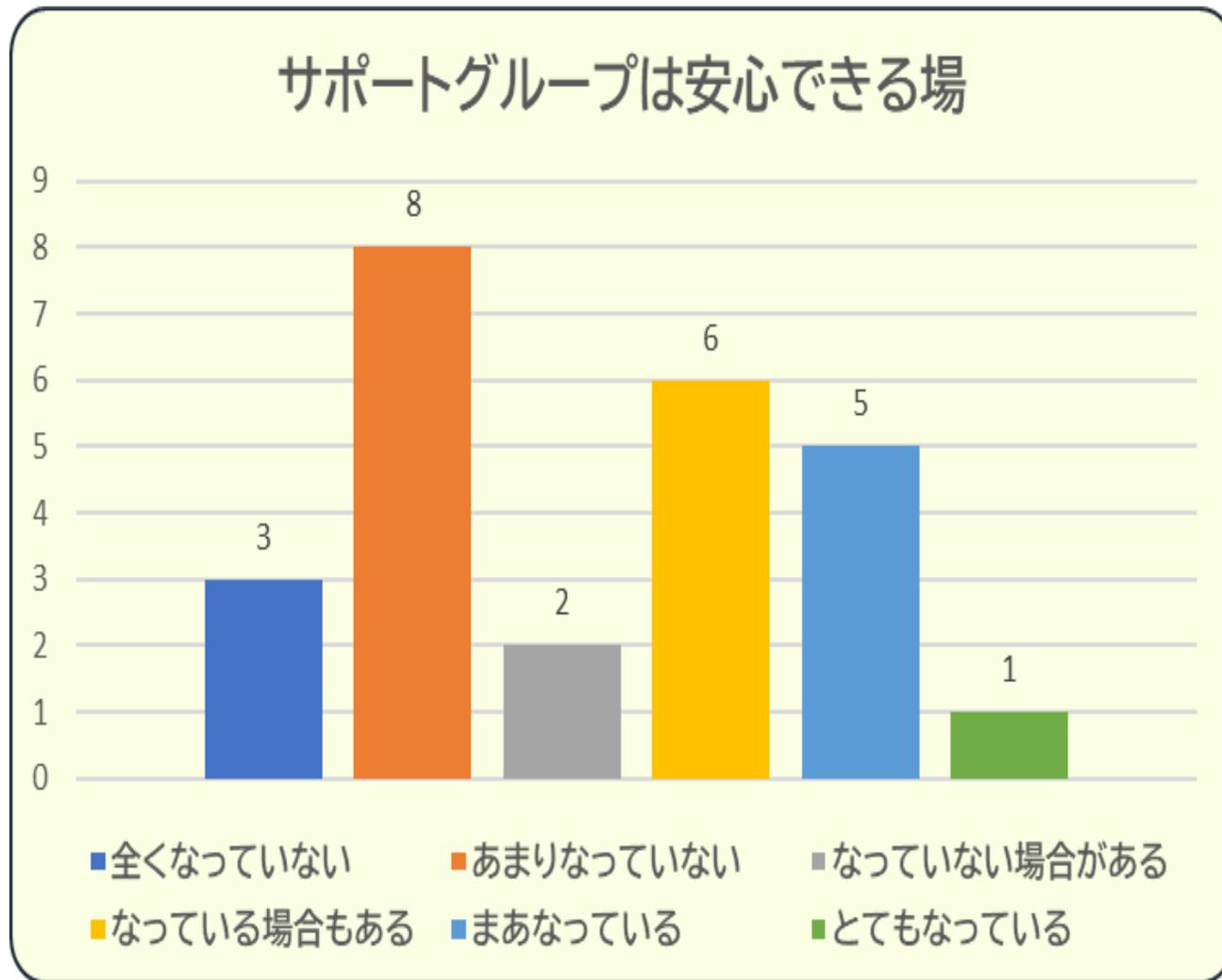
サポートグループへ参加



積極的に参加したいと考える者は少ない。なんとなく、勧めれが多いが、参加促すことが重要と考える。

	サポートグループに参加
暇つぶし何となく	8
人に勧められ	5
寂しい・気分を変える	4
不安解消・話がしたい	3
盗みをしたくない	1
相談せず	9

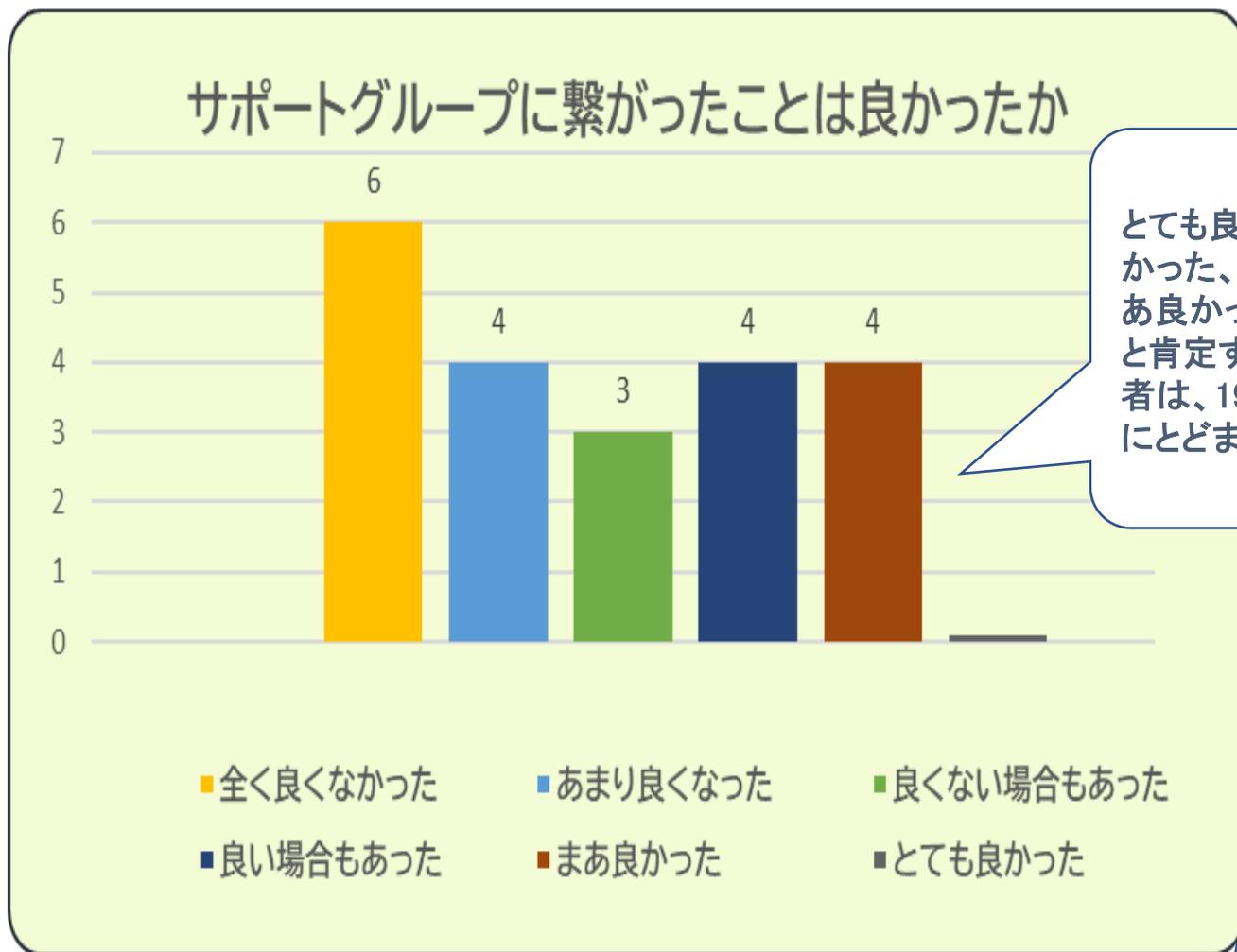
# サポートグループに安心感を感じた人



サポートGは安心した場か	
全くなっていない	3
あまりない	8
ない場合がある	2
なっている場合もある	6
まあなっている	5
とてもなっている	1

肯定的な意見は48%程度

# サポートグループにつながったことは良かったか

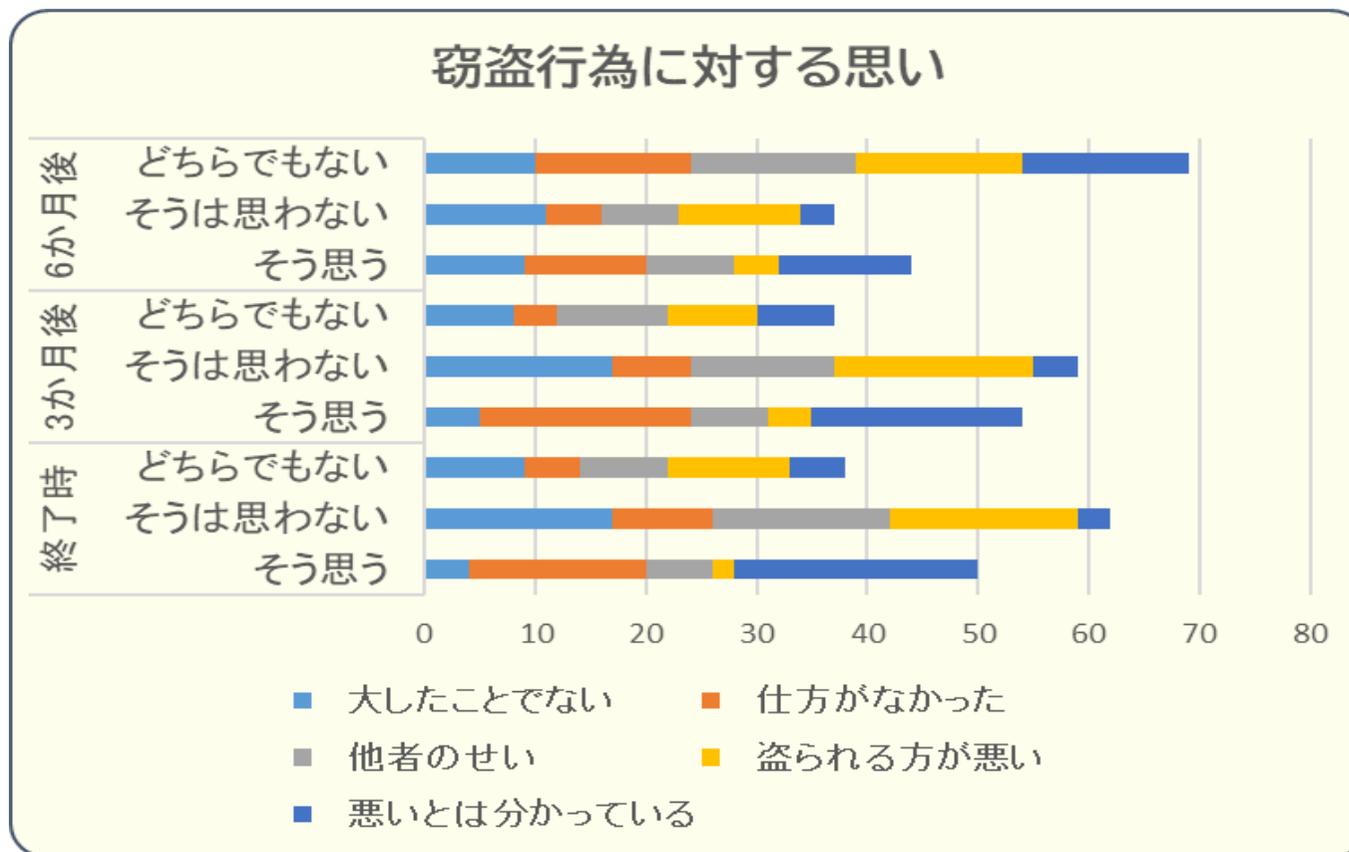


とても良かった、まあ良かったと肯定する者は、19%にとどまった。

サポートGにつながったことは良かったか	
全く良くなかった	6
あまり良くなった	4
良くない場合もあった	3
良い場合もあった	4
まあ良かった	4
とても良かった	0

自己有用感や自信の欠如から、他者への遠慮あるいは見栄や外聞を気にする傾向が強いことからきているものと推察される。

# 時系列の認知変化 窃盗行為に対する思い

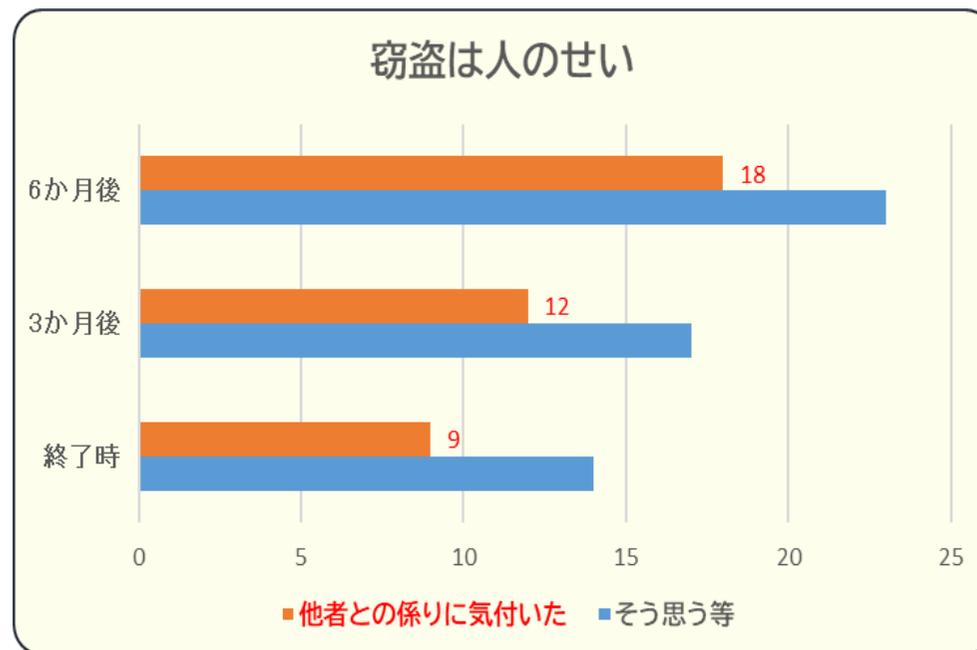
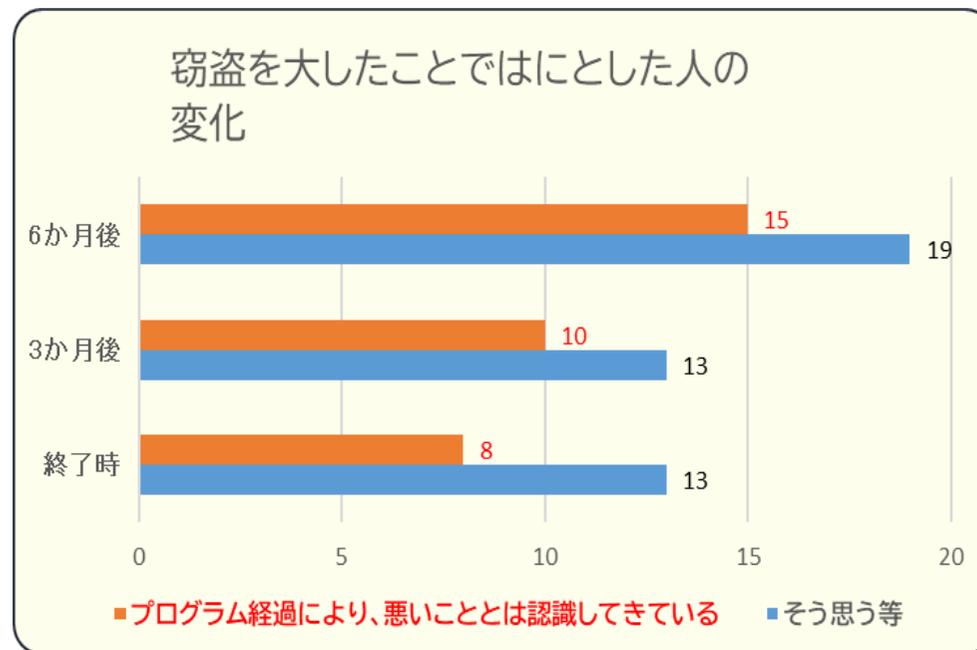


受講後、行為の影響を理解しつつも、当時の自分の置かれた状況から仕方がなかったと考える者が多かった

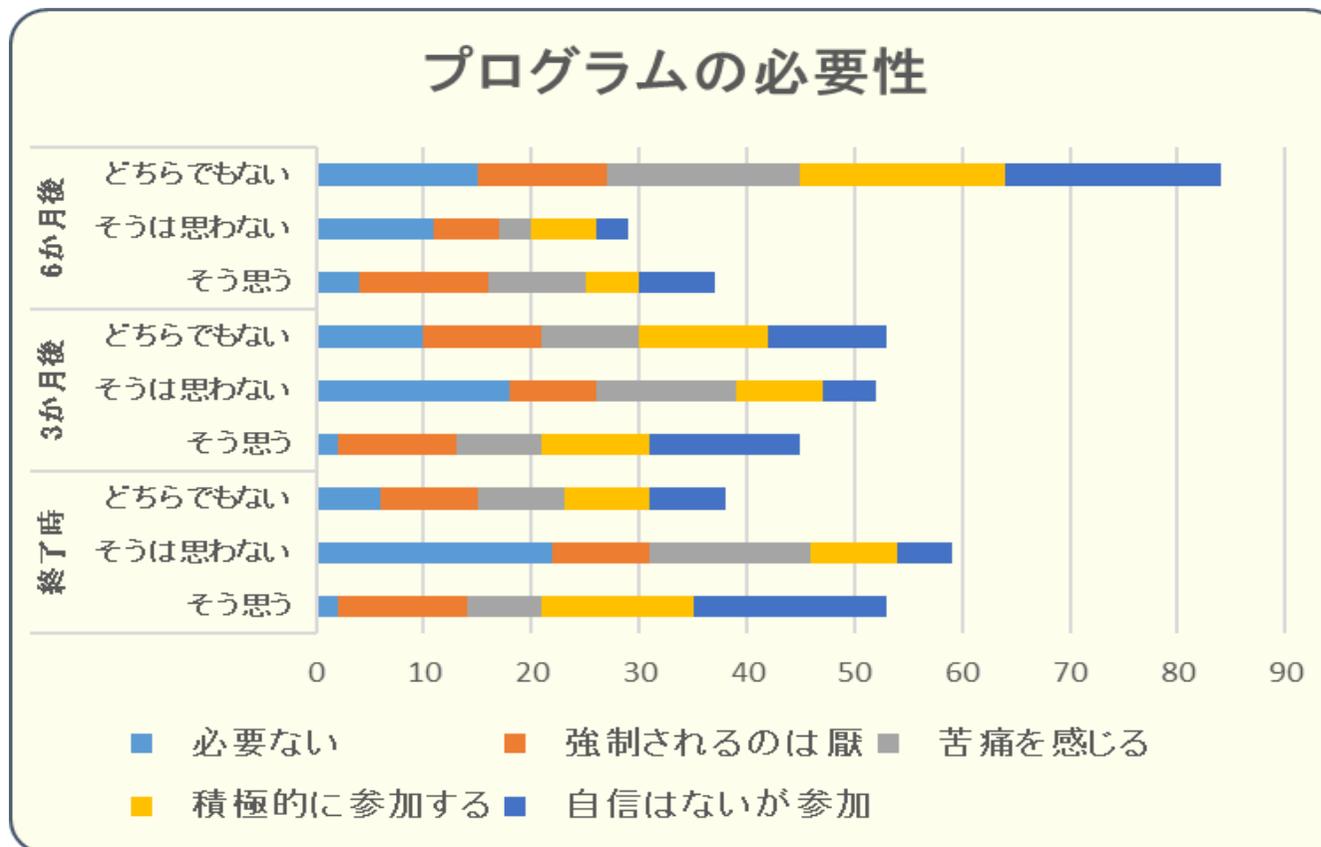
	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
大したことでない	4	17	9	5	17	8	9	11	10
仕方がなかった	16	9	5	19	7	4	11	5	14
他者のせい	6	16	8	7	13	10	8	7	15
盗られる方が悪い	2	17	11	4	18	8	4	11	15
悪いとは分かっている	22	3	5	19	4	7	12	3	15

# 窃盗行為は他者のせい・大したことではないと思う人の変化

大したことではない	そう思う等	プログラム経過により、悪いこととは認識してきている	
終了時	13	8	61.5%
3か月後	13	10	76.9%
6か月後	19	15	78.9%
他者のせい	そう思う等	他者との係りに気付いた	
終了時	14	9	64.3%
3か月後	17	12	70.6%
6か月後	23	18	78.3%



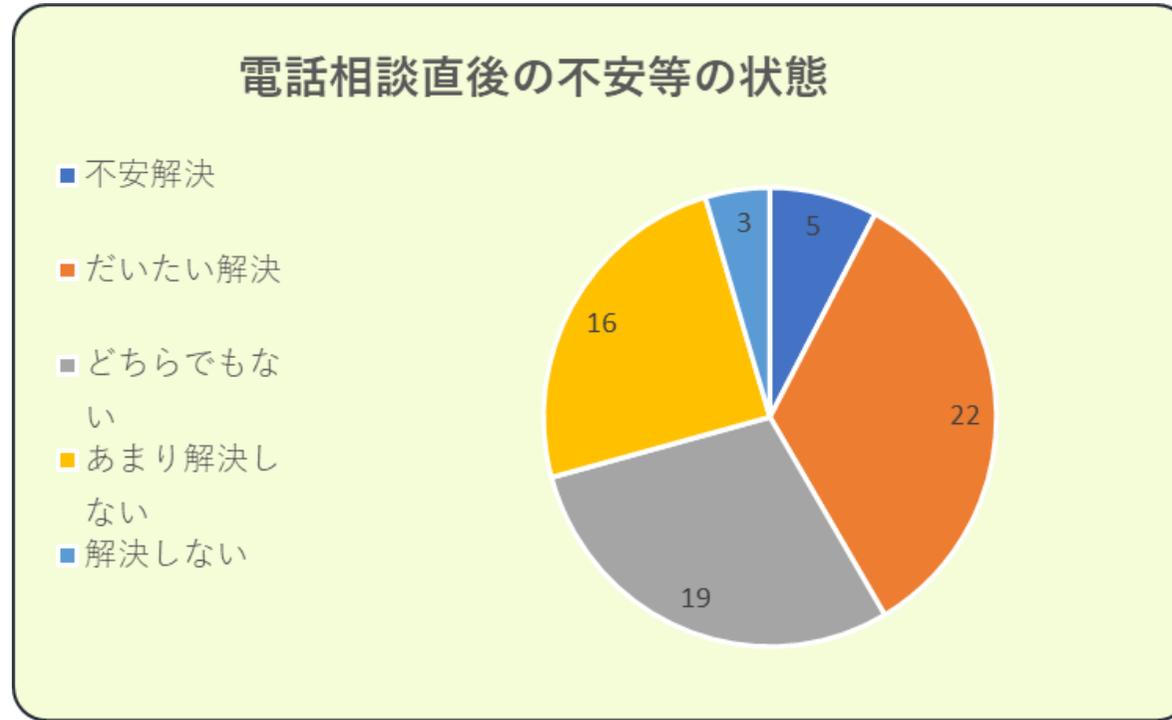
# プログラムの必要性に関する思い



概ね今後プログラムを継続していこうと考えているが、時間の経過とともに減少、フォローアップの必要がある。

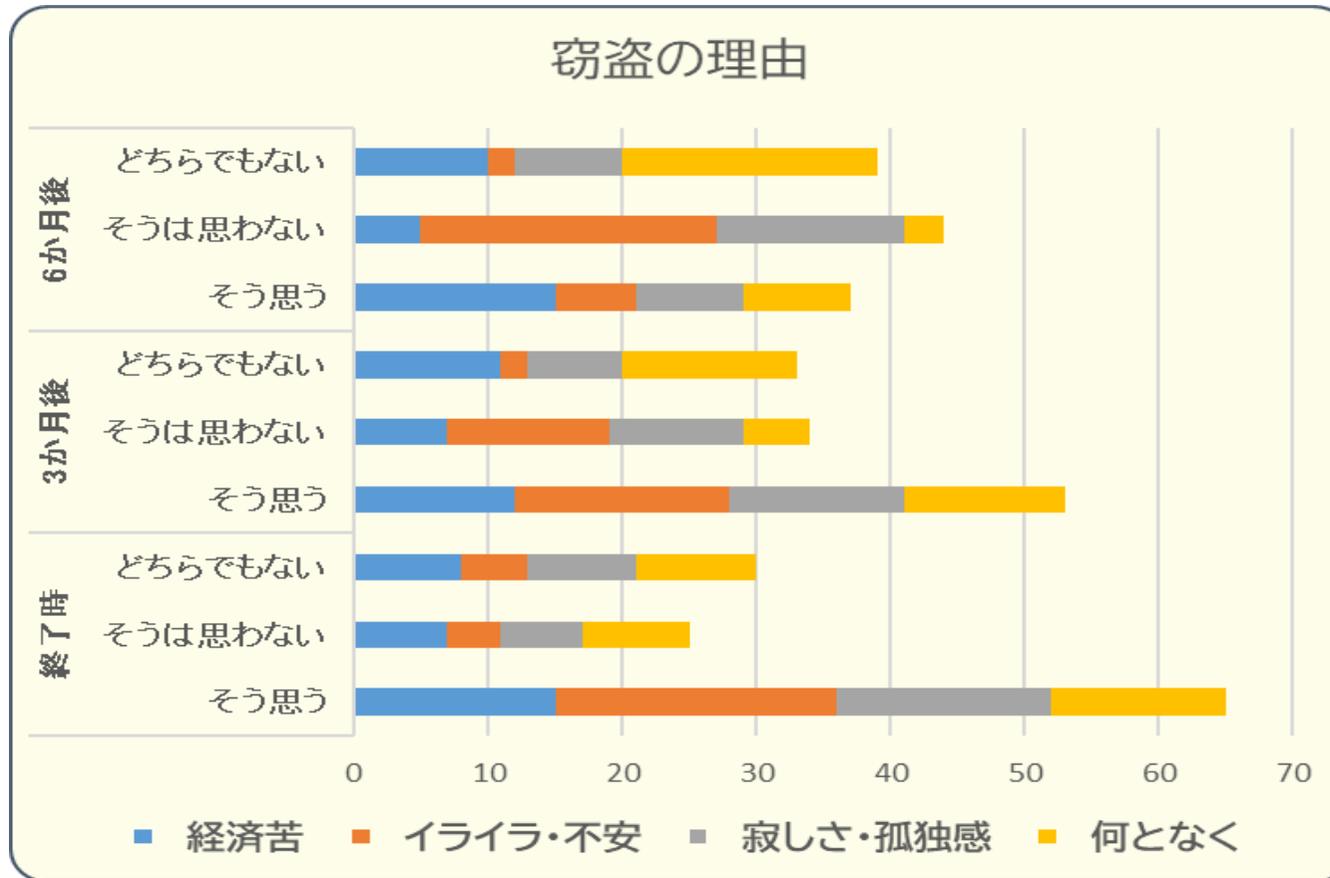
プログラム	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
必要ない	2	22	6	2	18	10	4	11	15
強制されるのは厭	12	9	9	11	8	11	12	6	12
苦痛を感じる	7	15	8	8	13	9	9	3	18
積極的に参加する	14	8	8	10	8	12	5	6	19
自信はないが参加	18	5	7	14	5	11	7	3	20

# 電話等情報ツールによる面談・相談直後の状況調査



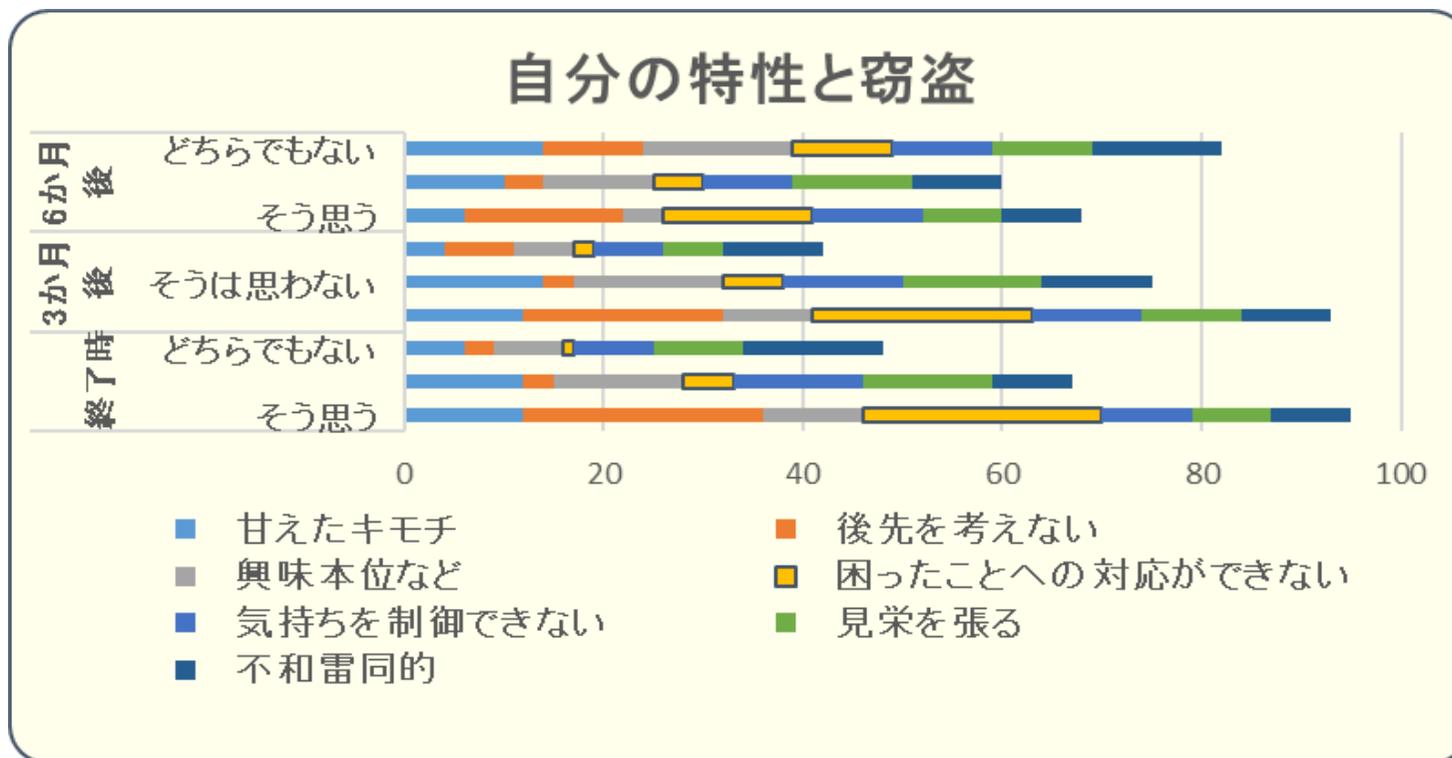
不安解消	だいたい解決	どちらでもない	あまり解決しない	解決しない	(人)
5	22	19	16	3	
7.80%	34.40%	29.70%	25.00%	4.70%	
電話相談者35人、延回数138回内、相談直後の心理状態を確認できた延べ人数65回/人					

# 窃盗の理由



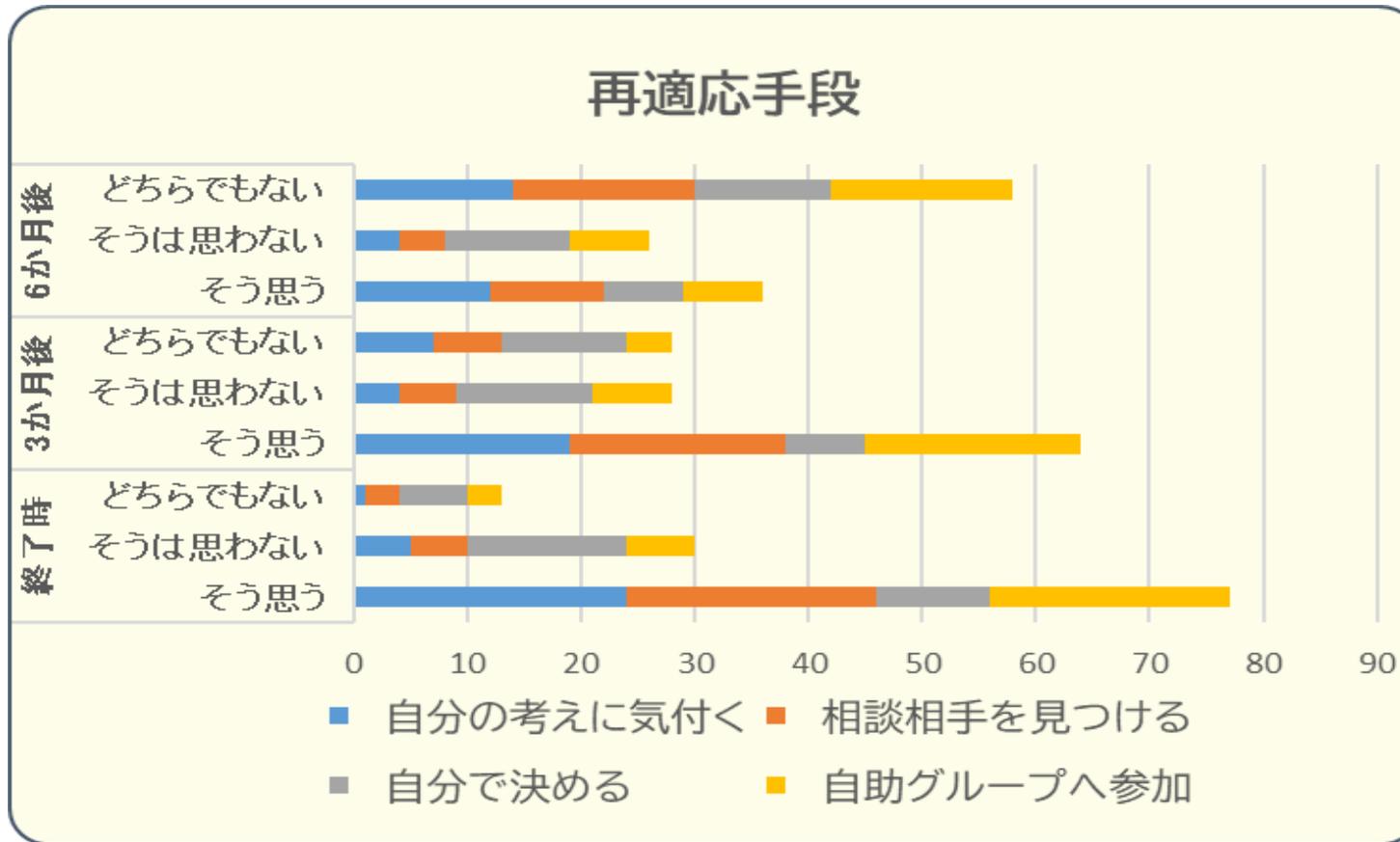
窃盗の理由	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
経済苦	15	7	8	12	7	11	15	5	10
イライラ・不安	21	4	5	16	12	2	6	22	2
寂しさ・孤独感	16	6	8	13	10	7	8	14	8
何となく	13	8	9	12	5	13	8	3	19

# 自分の特性と窃盗



自分の特性と窃盗	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
甘えたキモチ	12	12	6	12	14	4	6	10	14
後先を考えない	24	3	3	20	3	7	16	4	10
興味本位など	10	13	7	9	15	6	4	11	15
困ったことへの対応ができない	24	5	1	22	6	2	15	5	10
気持ちを制御できない	9	13	8	11	12	7	11	9	10
見栄を張る	8	13	9	10	14	6	8	12	10
不和雷同的	8	8	14	9	11	10	8	9	13

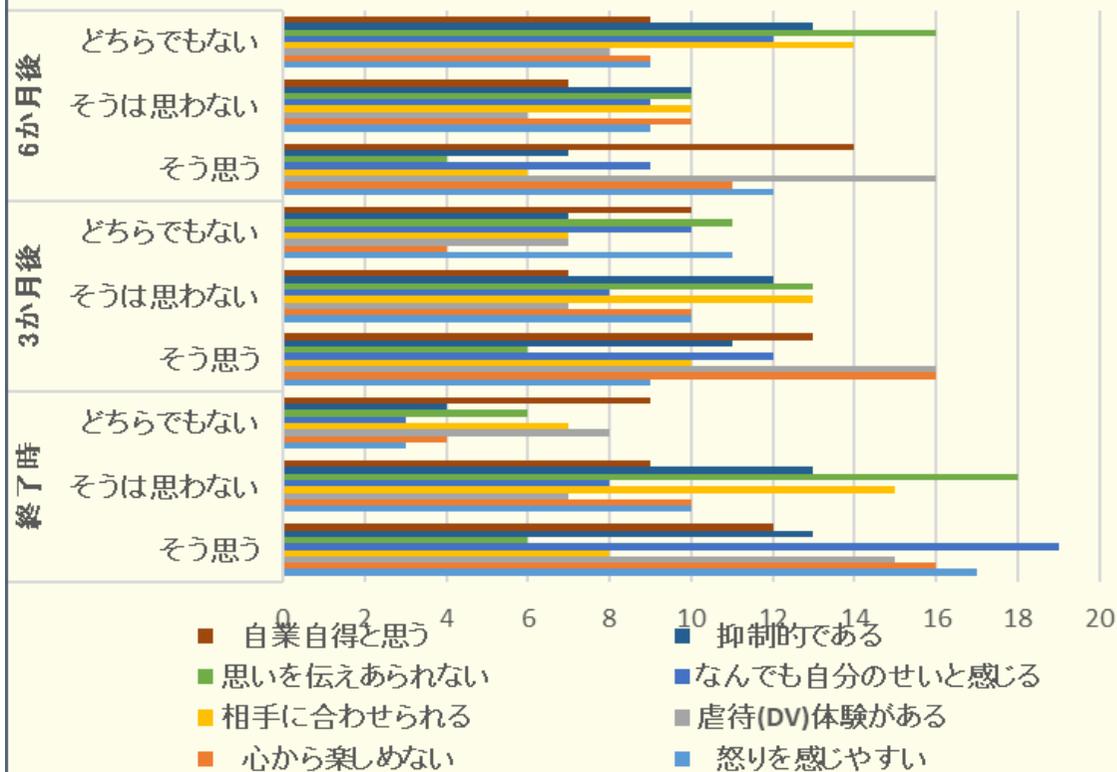
# 再適応手段



再適応手段	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらもない	そう思う	そうは思わない	どちらもない	そう思う	そうは思わない	どちらもない
自分の考えに気付く	24	5	1	19	4	7	12	4	14
相談相手を見つけ	22	5	3	19	5	6	10	4	16
自分で決める	10	14	6	7	12	11	7	11	12
自助グループへ参	21	6	3	19	7	4	7	7	16

# 自分と向き合う

## 自分と向き合ったら

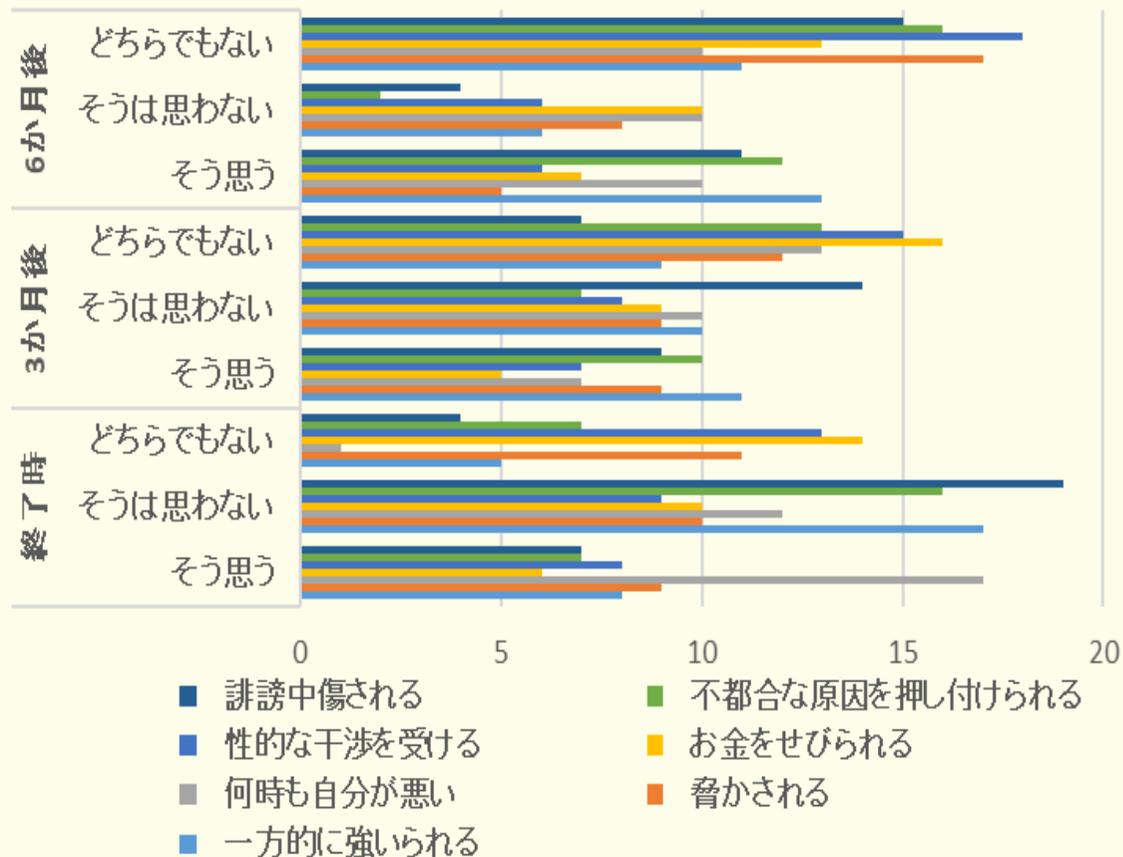


終了時は怒りの感じ安さ、なんでも自分のせいと考え、自己の姿を冷静に見ているが、時間の経過とともに薄れる傾向

自分と向き合う	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
怒りを感じやすい	17	10	3	9	10	11	12	9	9
心から楽しめない	16	10	4	16	10	4	11	10	9
虐待(DV)体験がある	15	7	8	16	7	7	16	6	8
相手に合わせられる	8	15	7	10	13	7	6	10	14
なんでも自分のせいと感じる	19	8	3	12	8	10	9	9	12
思いを伝えられない	6	18	6	6	13	11	4	10	16
抑制的である	13	13	4	11	12	7	7	10	13
自業自得と思う	12	9	9	13	7	10	14	7	9

# 対人関係

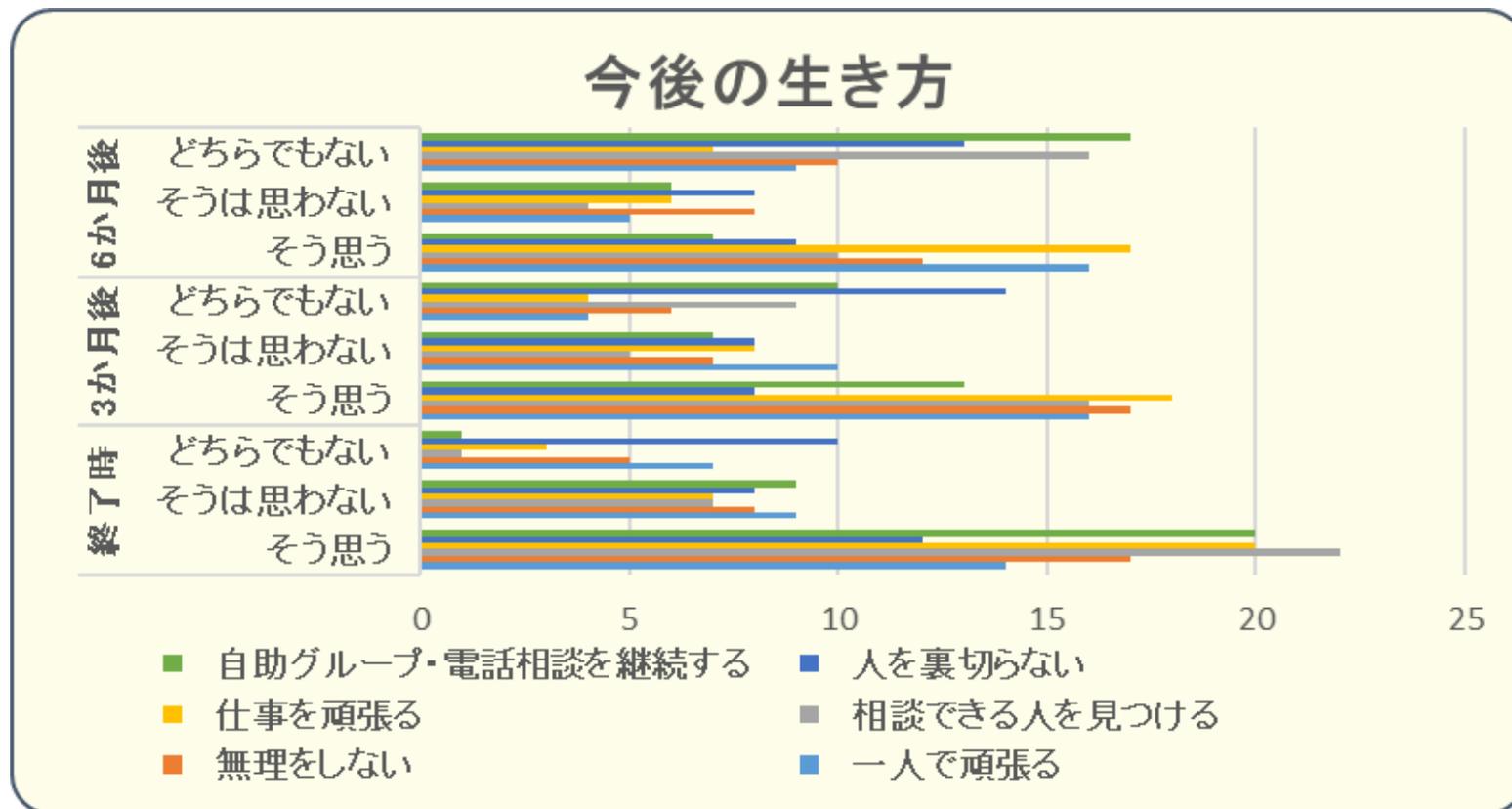
## 対人関係



受講後被害的に受け止める人が増え、支援の継続の必要性がある

対人関係	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
一方的に強いられる	8	17	5	11	10	9	13	6	11
脅かされる	9	10	11	9	9	12	5	8	17
何時も自分が悪い	17	12	1	7	10	13	10	10	10
お金をせびられる	6	10	14	5	9	16	7	10	13
性的な干渉を受ける	8	9	13	7	8	15	6	6	18
不都合な原因を押し付けられる	7	16	7	10	7	13	12	2	16
誹謗中傷される	7	19	4	9	14	7	11	4	15

# 今後の生き方



今後の生き方	終了時			3か月後			6か月後		
	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない	そう思う	そうは思わない	どちらでもない
一人で頑張る	14	9	7	16	10	4	16	5	9
無理をしない	17	8	5	17	7	6	12	8	10
相談できる人を見つける	22	7	1	16	5	9	10	4	16
仕事を頑張る	20	7	3	18	8	4	17	6	7
人を裏切らない	12	8	10	8	8	14	9	8	13
自助グループ・電話相談を継続する	20	9	1	13	7	10	7	6	17

図 書 紹 介



ワークブック  
窃盗離脱プログラム リ・コネクト

藤野京子・鷺野薫(著)

発行・現代人文社

改善指導や矯正教育のレシピ本

本書は、窃盗を繰り返してしまふことに悩みを抱えている人が、自身自身を理解し、窃盗をせずに生活できるようにするための要点を分かりやすくまとめ、考えられるような題材を盛り込んだワークブック形式の書籍です。

全体は一七回で構成されており、読み進んでいくうちに自分と向き合いながら、徐々に窃盗を繰り返す自分の状態や課題を理解し、その対処方法が自然に身に付くよう意図されていますが、「窃盗防止対策のレシピ本」とうたわれているように、一

矯正局成人矯正課企画官  
佐伯 温

通り味わった(読んだ)後には、お気に入りや気になる料理(テーマ)を賞味する(重点的に読んでみる)ことができるよう工夫されています。私たちにはまだなじみの薄い「グラウンディング」の手法を含め、それぞれの内容は著者の専門的な研究成果やこれまでの臨床経験を素材としつつ、誰にも分かりやすいように、問題を抱える人が自尊心を低下させることのないよう配慮されており、著者の当事者やその支援者への思いがうかがわれます。著者も記載しているとおり、窃盗からの睡眠を助け

る書籍はほとんどないことから、問題を抱える当事者やその支援者にとって貴重な一冊であると言えます。また、学びの効果や魅力を高めるための手法を総称するインストラクショナルデザイン(教育設計)の考え方からも参考になります。本書は、文字の大きさやバランス、ワークシートの配置、視しやすさ、イラストの使用など、読みやすく、関心を引くよう配慮されています。矯正の現場で教材を作る場合にも、内容だけでなく、この書籍のように被収容者が手に取りやすいようなものとなるよう心掛けていくことが必要ではないでしょうか。矯正施設で作成される教材は、漢字にルビをふるといった配慮こそなされていますが、まだまだ改善の余地がありそうです。

問題を抱える当事者やその支援者のもとより、私たち矯正職員が改善指導や矯正教育を実践していく上で、もレシピ本となる一冊です。

# 刑政

新春インタビュー 二〇二三年の矯正に向けて  
矯正を去るに当たって  
令和四年版犯罪白書から  
令和四年の矯正文獻  
刑務官の職務能力の向上策について

大竹宏明ほか  
柿添 聡  
平原政直  
吉村幸司  
橋本洋子

2023  
1

Straf ist myn handt, mar lieflijk myn gemoedt.